ち　ぢ

舌音にして單子音の一つ。

ちの濁音。

〔一〕動物の體內を循環する液。●血液。〔二〕血系。

〔一〕女人の乳房より出でゝ子を育つる液。●乳汁。〔二〕乳汁の出づる處。●乳房。〔三〕乳房の垂れたる形に似て紐など通すもの。……「旗のち」「幕のち」「羽織のち」の類。

草の名。葉は稻に似て鋭く。手などを切る程のもの。花は茅花（つばな）と稱へて春の末に女兒など之を抜き遊ぶ。●かや。●ちがや。つりばり。（古）

〔一〕つち。●地球。●國土。○「天地」〔二〕土地。●國。●地方。○「當地の人」

いけ。

畏心。

知惠。●さとり。

馬鹿。

世の治まる事。●治世。

ち　血（名）
ぢ　乳（名）
ち　茅（名）
ち　鈎（名）
ち　地（名）
ち　池（名）
ち　知（名）
ち　智（名）
ち　痴（名）
ち　治（名）

ち　笞（名）
ち　徵（名）
ち　千（數）
ち　路（名）
ぢ　地（名）
ぢ　持（名）
ぢ　痔（名）
ぢ　柱（名）
ぢ　治（名）

古代の刑罰。罪人を鞭うつ法にて其數は十笞より五十笞までの五等あり。杖の輕きもの。

音樂上の音。五音の一つ。

〔一〕百を十合せたる數。●せん。〔二〕多くの數。○「千代」「千里」

道。……熟字となりて末音にある時は濁る。……「野ぢ」「山ぢ」「旅ぢ」の類。

〔一〕つち。●地球。●地所。●地面。〔二〕品物の面。●織物の面。〔三〕物の染色。〔四〕物の性質。●品がら。〔五〕物語文などにて記者の言語。すなはち文中の人と人との對話ならぬところ。〔六〕謠曲にて役者の外に謠ふ同吟者。又同吟者の謠ふべき部分。

〔一〕相撲に於て雙方勝負なき事。●持合。●あひこ。〔二〕歌合にて優劣なきを判定する詞。〔三〕圍碁の詞。せきに同じ。

病の名。肛門の腫るゝ病。

琴を彈く時。糸を支へ置く山形なりのもの。●ことぢ。

療治。○榮花「風おもくおはしますとて風

の治ごもたせさせ給ふ」

ちゐ 地位(名) ゐどころ。●場所。

ぢい 祖父(名) ぢゞ。●父母の父。

ぢい 爺(名) 老翁。

ちいほか 千五百(數) 〔一〕せんごひゃく。〔二〕無限の數。

ちいほかあき 千五百秋(名) 永久の年數を祝ひ言ふ詞。瑞穗の國を祝ふ故に秋の字を用ひたる意もあり。○「千五百秋の瑞穗の國」

ちいん 知音(名) 知己。●親友。●知る人。

ちひィさがたな 小刀(名) 短刀。昔し武家の狩衣、素袍などを著る時腰に差したるもの。

ちひィさやか ちひさき有樣。(形)—ちひさやかなる。(副) ちひさやかに。

ちひィさし 小(形)形狀言ク活) 嵩の少なき。●細し。●いさゝかなる。●短し。●低し。

ちいみ 血忌(名) 曆の詞。婚姻、鍼治、灸治などに忌むべき日。

ちろ 地爐(名) 圍爐裏。

ちろぼふ (自動四段) 散りぼふ。●散らばる。●散亂する。○字治「かやうの處には食物ちろぼふものぞさて」

ちろり (名) 酒の燗する器。尻尖りて灰の中に挿し込み溫むる德利の如きもの。

ぢろん 持論(名) 平生懷き持つ議論。

ぢろう 痔漏(名) 穴痔に同じ。

ちは チワと發音する詞ばちわの處にあり。

ちはつ 薙髮(名) 髮を剃る事。●出家する事。△(動)—薙髮す。

ちばなれ 乳離(名) 小兒の乳首を離るゝ事。

ぢばん 地盤(名) 土地の土臺。

ちはう ちほの處にあり。

ちはふ ちわの處にあり。

ちばの 千葉の(枕) 葛ば葉の多く繁るものなれば千葉の葛野と掛かる枕詞。○記「千葉の葛野を見れば」

ちはこ 千箱(名) 無數の箱。○新續古今序「此外浦々にかきおく藻鹽草は千箱の數よりも多」……千箱の玉を見よ。

ちはこのたま 千箱の玉(名) 宣化天皇の紀の詔に曰く「黃金万貫不可療飢。白玉千箱何能救冷。」とあるより出づ。◎數多くの箱に入りたる玉。○謠曲「千箱の玉を奉る」

ちばしる　血走(自動四段)　血の走り出づる。●眼などが血の色になる。

ちぼそ　地細(名)　織地の糸の細き事。

ちはう　地方(名)　或一方の土地。●都の外の土地。●縣。

ちぼう　智謀(名)　智慧ある謀畧。

ちはうくわん　地方官(名)　縣官。

ちはうぜい　地方税(名)　其府縣の人民より取り立て其府縣にて消費するための税。

ちへい　地平(名)　地上の平面。

ちへいせん　地平線(名)　天と地と相接するが如く見ゆる虚空の果。○「日は地平線に沈みたり」

ちと　(副)　少し。●わづか。●しばらく。

ちどり　千鳥(名)　水鳥の名。背は鼠色に腹白く翼黑くして鷸鴾に似たる鳥。冬の頃多く群れてチイ〳〵と鳴きわたる。○「浦千鳥」「磯千鳥」「川千鳥」「小夜千鳥」「夕波千鳥」

ぢどり　地鳥(名)　其土地にて生まれたる鷄。……舶來の種に區別して。

ぢどり　地取(名)　能樂にて「次第」といふ文句をシテ又ワキなどの謠ひたる後。地謠の低音にて之を繰返し謠ふ事。

ぢどり　地取(名)　稽古に取る相撲。

ちどりがひィ　千鳥貝(名)　貝の名。白色にて茶色の線ある千鳥の形に似たる貝。●ごぶがひ。

ちどりがけ　千鳥掛(名)　糸を筋違に入れたる一種の縫方。◎千鳥は筋違に飛びちがふものなれば云ふ。

ちどりのあと　千鳥の跡(名)　〔一〕千鳥の足跡。〔二〕文字の異名。◎支那にて水鳥の跡を見て文字を作りはじめたる故事によりて云ふ。

ちどりあし　千鳥足(名)　醉客の左右に踏みちがへてよろめく足つき。◎千鳥は筋違に飛びちがふものなれば云ふ。

ちどん　痴鈍(名)　愚にて鈍き事。

ぢどう　地頭(名)　鎌倉時代に國々の莊園を管理せし役。

ちどめ　血止(名)　出血を止むる藥。

ちどせ　千年。千歳(名)　〔一〕せんねん。〔二〕無限の年數。

ちどせがひィ　千歳貝(名)　螺の種類。

ちち　父(名)　男親。●てゝ。●とゝ。●かぞ。

ちち 乳(名) ちに同じ。乳汁。また乳房。

ちち (名) 木の名。いてふの一名。(雅)

ちち (感) 雀、千鳥、蓑虫などの鳴聲。

ちぢ 千々 多數。●種々。●いろ〳〵。(形)—千々の。(副)—千々に。

ぢぢ 祖父(名) 父母の父。●そふ。

ぢぢ 翁(名) 老翁。

ちちろむし (名) 虫の名。こほろぎの異名。

ちぢり (名) 松の實。●松笠。

ちぢる 縮(自動下二段) 毛、糸、などによりがよれて短くなる。

ちちかた 父方(名) 父の血筋の續合。

ちぢかむ (自動四段) 縮むに同じ。

ちぢかまる (自動四段) 縮むに同じ。

ぢぢやうデウ 治定(名) 確定。(俗)

ちぢれ 縮(名) ちゞるる事。

ちぢれげ 縮毛(名) ちゞれたる髪の毛。

ちぢむ 縮(他動下二段) ちゞましむる。●小さくする。●少なくする。●ちゞらせる。

縮(自動四段) 小さくなる。●狹くなる。●短くなる。●ちゞれる。

ぢぢむさし (形。形狀言ク活) 不潔な。●穢ならしい。(俗)

ちちのみの (枕) ちゝのみは銀杏の實なり。同音を重ねて父に掛けたる枕詞。○萬葉「ちゝのみの父のみこと」

ちぢく 地軸(名) 地球に獨樂の如き軸あるものと想像して云ふ詞。●地球の心棒。

ちぢく (自動下二段) ちぢるに同じ。○大鏡「髪ちぢけたるに」

ちちくび 乳首(名) 乳房の先。

ちぢまる 縮(自動四段) 縮むに同じ。

ちちぶぎぬ 秩父絹(名) 武藏の秩父郡より產する絹。多く衣類の裏地などに用ふ。

ちちご 父御(名) 他人の父を尊びて云ふ詞。

ちちぎみ 父君(名) 父上に同じ。

ちぢみ 縮(名) (一)縮む事。(二)糸に縮みを掛けて織りたる絹布。

ちちじ 父字(名) 漢字の音を反切する時。上なる字を父字と云ひ下なる字を母字と云ふ。……はんせつを見よ。

ちり 塵(名) ごみ。●ほこり。●あくた。

ちり　地理(名)　〔一〕地球上萬象の叙述。〔二〕地形。●地勢。

ちり　(名)　料理の名。魚肉豆腐などを湯煮にし橙酢などに掛けて食するもの。

ちり　散(名)　散る事。

ちりばかり　(副)　塵はども。●少しも。○源氏「塵はかりへだてなく」△(形)―塵ばかりの。

ちりばな　散花(名)　散りたる花。●落花。

ちりはらひィ　塵拂(名)　塵を拂ふ道具。●はたき。●さいはい。

ちりばむ　鏤(他動ト二段)　金屬および板などに細かき彫りを爲す。●毛彫をする。

ちりばむ　(自動四段)　塵まぶれになる。

ちりばめ　鏤(名)　ちりばむる事。●金屬および板などに爲す細かき彫刻。●毛彫。

ちりにつぐ　塵に繼ぐ(句)　白氏文集。不致仕の詩に。寂寞東門路。無人繼去塵。三代實錄に。庸主繼塵。古今集漢文序に。詩人才子慕風繼塵など見えて跡を繼ぐ意に用ふる詞。○續古今「今もまた積れる事を問はるゝは塵に繼げとや大和言の葉」

ちりにまじる　塵に交る(句)　ちりにまじはるに同じ。○年中行事歌合「頼むかな塵にまじりて御幸する北野の露の深きめぐみを」

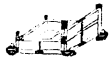
ちりにまじはゝる　塵に交る(句)　和光同塵を見よ。○長明百首「大和なるためしを見せよ君が代に塵にまじはる神ならば神」

ちりぼふッ　(自動四段)　ちらぼふ。●散らばる。●散亂する。

ちりとり　塵取(名)　塵を掃き集めて運ぶ道具。●ごみとり。

ちりとり　塵取(名)　輿の一種。塵埃を運ぶ器に似たる故の名。○太平記「合戰に痛手を負ひたりける間。馬には得乘らずして塵取に舁かれて遙の跡に來げる」

ちりぢ　〔副〕　塵地(名)　塗物の一種。●梨子地。



ちりちり　(感)　千鳥などの鳴く聲。

ちりぢりに　散散に(副)　ばら〳〵に。

ちりがた　散方(名)　將に散らんとする時期。●ちりかかり。●ちりかけ。○謠曲「いかさま此花ちりがたになり候な」

ちりかふ（ソウ）（自動四段）　竪横十文字に入り違ひ散る。

ちりがく　地理學（名）　地理の學問。

ちりがましし（形。形狀言シク活）　塵のかゝりたるらしき。●埃だらけの。○源氏「塵かましき御帳の内」

ちりがみ　塵紙（名）　塵の如き滓のある紙。

ちりょ　智慮（名）　智惠と思慮。

ちりょう　鱗龍（名）　あまりょうに同じ。

ちれうう（リョウ）　治療（名）　病を直す事。●療治。△（動）—治療す。

ちりょく　智力（名）　智惠の力。

ちりれんげ　散蓮花（名）　匙の一種。散りたる蓮花の一ひらの如く陶器にて作れるもの。

ちりざうり　塵草履（名）　藁にて作れる粗末なる草履。

ちりづか　塵塚（名）　塵の溜つてゐる處。●ばきだめ。●ごみため。

ちりなみ　散波（名）　雨の異名。

ちりうち　塵打（名）　塵はらひに同じ。●はたき。

ちりのほか　塵の外（名）　濁世以外。●世俗の外。

ちりのさかひ（イ）　塵境（名）　人間界。●俗世間。○新千載「足引の山をうきよの隔にて塵の境に跡ば絶ねにき」

ちりのみ　塵の身（名）　〔一〕塵の如く數ならぬ身。●賤しき身。〔二〕塵の如くはかなき身。●人間の身。

ちりのすゑ（名）　〔一〕花の散り行く行末。〔二〕塵の如く數ならぬ末々の身。

ちりけ　（名）　脊中の上の方。

ちりめん　縮緬（名）　絹糸によりを掛けて縮ませて織りたる絹。

ちりめんがみ　縮緬紙（名）　紙の一種。縮緬のやうに縮ませたる紙。

ちりめんざこ　縮緬雜魚（名）　しらすぼし。●いりなご。●いりこ。

ちりめんじわ　縮緬皺（名）　縮緬に似たる細かき皺。

ちりめんじそ　縮緬紫蘇（名）　細かく縮れたる葉の紫蘇。

ちりしょ　地理書（名）　地理の事を書きたる本。

ちりひぢ　塵泥（名）　塵や泥や。

ちりすく　散透（自動四段）　花紅葉などの大方散りて枝の疎になりたるを云ふ。

ちりすぐ　散過（自動上二段）　花紅葉などの散りて其盛の過きたるを云ふ。

ちぬ（名）　黑鯛の一名。

ちぬる　釁（自動四段）　血を塗る。●血を濺ぐ。●血を附くる。○「刄にちぬる」

ちぬだひィ（名）　ちぬに同じ。

ちぬし　乳主（名）　小兒に乳を呑まする役の女。●うば。（空穗）

ぢぬし　地主（名）　土地の持主。

ちる　散（自動四段）　集まりたるものが別々に爲る。●粉の如きものが亂れ飛ぶ。●どことなく廣がる。

ぢわウう　地黃（名）　藥草の名。夏の頃紫色薄黃色などの胡麻に似たる花咲くもの。

ちたも　乳母（名）　ちは乳。おもは母の古言。◎うば。●めのと。●ちぬし。（和名抄）

ちわ　痴話（名）　〔一〕痴情に關する話。●色ばなし。〔二〕戀。●色情。

ぢわり　地割（名）　〔一〕家屋など建つるためにする地面の割附。〔二〕能樂にて地謠人員の役割。

ちわく　道別（他動四段）　道にあるものを搔き分け進む。○祝詞式「天の八重雲をいづのちわきにちわきて」

ちわげんくわ　痴話喧嘩（名）　惚れた同士の言合ひ。

ちわぶみ　痴話文（名）　戀の手紙。●色ぶみ。●懸想文。

ちわき　道別（名）　ちわく事。

ちか　地價（名）　土地の直段。

ちか　地下（名）　土の下……多くは死人の葬られたる墓の中。○「以て地下に瞑すべし」

ちか　近（名）　ちかき事。●近邊。

ぢかい　持戒（名）　佛法の戒律を守る事。

ちかひィ　誓盟（名）　〔一〕ちかふ事。●誓約。●誓言。●盟約。〔二〕佛の衆生を救はんとする約束。●誓約。●誓願。●本願。〔三〕又轉じては神にも云ふ。○風雅「片そぎの千木は內外にかはれども誓は同じ伊勢の神垣」

ちがひィだな　違棚（名）　左右より上下二段に打違へ作りたる棚。床の間の懸物を懸けぬ方に設くるもの。

ちかひィのうみ　誓海（名）　法華經。弘誓深如海の句より來る。◎佛の衆生を救はんとする誓約の弘き喩へ。○新千載「今は又誓の海の渡守くるしき波に人は沈めじ」

ちかひィのふね　誓舟（名）　弘誓（くせい）の舟に同じ。ちかひのあ

みと同一の意味。○風雅「世にこゆる誓の舟を頼むかな悲しき海に身は沈めども」

ちかひィのあみ 誓網(名) 佛の慈悲の喩へ。苦海に溺るる衆生を網にて救ひ上げんとする佛の誓約。○謠曲「誓の網には漏るまじき。難波の海ぞ有難き」

ちかひィぶみ 誓文(名) 誓約の證書。●せいもん。

ちかどなり 近隣(名) 最も近き隣家。

ちかおとり 近劣(名) 近づきて見れば遠く見しよりは劣る事。○和泉式部物語「近おとりいかにせんと思ふこそ苦しけれ」

ちかよる 近寄(自動四段) 近づく。

ぢかた 地方(名) 陸地。

ちがたな 血刀(名) 血の附きたる刄。

ちかづく 近づく(他動下二段) 近からしむる。

ちかづく 近づく(自動四段) 近くなる。

ちかづき 近附(名) 親密。●懇意。●入魂。

ぢがね 地金(名) (一)本質の金。……滅金などを除きたるもの。(二)轉じては裝飾を除きたる人間の本性。●あら。

ちから 力(名) 活動の勢ひ。

ちから 税(名) 人民の力の結果を出だすものなれば云ふ。◎貢物。●租税。●賦役。

ちからぢからしう 力力しう(副) 力を入れて。●力をいれたるやうに。○落窪「つまはじきをいと力々しうし給ひて」

ちかられィう 主税寮(名) 諸國の年貢、米穀、禁中の賄を管掌する官廳の名。民部省の所屬にて頭(かみ)助(すけ)。允(じよう)。屬(さくわん)の官吏あり。●ちからのつかさ。●しゅぜいれう。

ちからぬの 庸布(名) ちからしろのぬのに同じ。

ちからかはゾ 逆靷(名) 馬具の名。鐙を縛り附くる革。〔圖〕

ちからなきかへェる 無力蝦(名) 催馬樂の曲名。

ちからのぬの 庸布(名) ちからしろのぬのに同じ。

ちからのつかさ 主税寮(名) ちかられうに同じ。

ちからぐるま 力車(名) 人の力にて挽く車。大八車の類。○榮花「力車にえもいはぬ大木どもに綱を附けて叫びの〻しり挽きもていき」

ちからこぶ 力瘤(名) 力を入るゝ時腕に出來る瘤の如き筋肉。

ちからあはせ 力合(名) 相撲。

ちからみづ 力水(名) 土俵にかゝりて後相撲取の飲む水。

ちからしろのぬの 庸布(名) 古へ人民の賦役に出づる代りに上納せし布。●庸布。

ちからしね 税稲(名) 租税に出だす稲。

ちからびと 力人(名) 力士。

ちからもち 力持(名) 腕力の多量なる人。

ちからもち 力餅(名) 坂道にかゝる前に食ひて力を附くるための餅。

ちかん 痴漢(名) 馬鹿な男。

ちかこふ 誓盟(他動四段) 互に血を飲みかはして行ふ意。◎神にかけて約束する。●契約する。●誓約する。

ちがふ 違(他動下二段) 〔一〕たがはしむる。●まちがへる。●異ならしむる。〔二〕兩方より反對の方向に出合ふ。●交叉する。

ちがふ 違(自動四段) たがふ。●まちがふ。●相違する。

ちかく 智覺(名) 知り覺ゆる事。●感し覺ゆる事。

ちかく 近く(名) 近邊。●近時。○「我屋の近くに」「近くの年」

ちかく 地學(名) 地理學。

ちかく 知學(名) 科學の古き譯語。

ちかや 茅萱(名) 草の名。〃ち又かやに同じ。

ちかやか 近き有樣(形)—近やかなる。(副)—近やかに。○源氏「近やかに伏た給へば」

ちかまさり 近優(名) 近づきて見れば遠く見しよりは優る事。○源氏「いとどしき近まさりをうつくしき物におぼす」

ちかごろ 近頃(名) 近來。●近日。●此頃。

ちかごと 誓言(名) 誓ひ言の略。●せいごん。

ちかごとぶみ 誓言文(名) 誓詞。●誓文。

ちがへそで 違袖(名) 左右の袖を取りて打ち違へ襷にする事。○平家「素絹の衣にちがへそでして下腹卷きて」

ちかさ 近さ(名) 近き事。

ちかきまもり 近衛(名) 〔一〕近衛府。〔二〕すべて近衛の官吏。○後拾遺「古の近きまもりを戀ふる間に是は忍ぶるしろしなりけり」……是は左近衛大將濟時を指す。

ちかめ 近眼(名) 近き處のみ見ゆる視力。●きんがん。

おがみ 地紙(名) 〔一〕扇に張る紙。〔二〕地紙の形を畫がける紋また模樣の名。〔圖〕

ちかみち 近道(名) 近き路。●早き方法。

ちかし 近(形。形狀言ク活) 我處より距離の短き。●現時まで時間の永く立たぬ。●差異の甚しからぬ。●血統交情などの疎遠ならぬ。

ちよ 千代(名) 無限の年數。●千歲。

ちよ 千夜(名) あまたの夜。○續古今「秋の夜の千夜を一夜になせりとも言葉のこりて鳥やなきなん」

ぢょ 女(名) 〔一〕をんな。〔二〕むすめ。

除(名) 數學上の詞。割る事。●割り算。

儲位(名) 皇太子の御位。

ちょいと (副) ちよと。●ちょつと。●暫く。●少し。●わづか。

ちよろづ 千萬(數) 無限の數。

ちょろっか (名) そゝっかしい事。

ちょろっかもの (名) そゝっかしい人。

ぢょらう 女郎(名) 〔一〕女。〔二〕遊女。●娼妓。

ぢょらうぐも 女郎蜘蛛(名) 蜘蛛の一種。黃なるぶちぶちのあるもの。

ぢょろや 女郎屋(名) 遊女屋。●娼家。●妓樓。

ちょぼ (名) 芝居にて語る淨瑠璃。

ちょぼ 櫻蒲(名) 博奕。

ちょぼ (名) 點。○「ちょぼを打つ」

ちょぼくれ (名) ちょぼくれぶしの略。

ちょぼくれぶし (名) 俗曲の一種。乞食などの木魚を叩きて唄ひあるくもの。

ちょへい 楮幣(名) 紙幣。

ちょと 一寸。鳥渡(副) ちょつと。●ちょいと。●暫し。●少し。●わづかに。

ぢょち 除地(名) 無稅の地所。

ぢょぢゃうふ 女丈夫(名) 女中の大丈夫。●男らしき女。

ちょちく 貯蓄(名) 金錢を貯ふる事。●蓄財。△(動)—貯蓄す。

ぢょちゅう 女中(名) 〔一〕婦人。〔二〕下婢。

ちょりつ 佇立(名) たゝずむ事。△(動)—佇立す。

ぢょがく 女學(名) 女のすべき學問。

ぢょがくかう 女學校(名) 女子を教育する學校。

ちょがみ 千代紙(名) 彩色にて樣々の紋形など摺りた

る美しき紙。婦女子の手箱など張るに用ひ又折熨斗にも作る。

ちよ 楮餘(名)　手紙の詞。紙のあまり。●書き殘し。

ぢょれい 女禮(名)　女禮式に同じ。

ぢょれいしき 女禮式(名)　女の行ふべき禮式作法。

ちょざう 貯藏(名)　貯へ仕舞ひ置く事。△(動)—貯藏す。

ぢぞく 除族(名)　罪により華族もしくは士族の籍を除かるゝ事。

ちょっき (名)　洋服の一つ。上着とシャツとの間に着る胴着。

ちょっきりむすび (名)　羽織の紐などの結び方。輪にせず唯こまむすびにして置くもの。

ちよなぐさ 千代菜草(名)　若菜の異名。○藻鹽草「いづくにも今日は摘むらん千代菜草彌生の種の數を揃へて」

ぢょら 女蘿(名)　草の名。日陰の蔓の一名。

ちょう 寵(名)　目上の人から愛せらるゝ事。●目下の人を愛する事。

ちょう (感)　固きものゝ打たれて發する音。△(副)—ちようと。○謠曲「ちょう〳〵〳〵と打ち重れたる槌の音」

ちやチヨう 廳(名)　〔一〕役所。●官廳。〔二〕特には檢非違使廳。

ちやチヨう 聽(名)　きく事。●きゝ。

ちやチヨう 丁(名)　〔一〕偶數。〔二〕丁年の男子。〔三〕書物の紙數。枚。

ちやチヨう 町(名)　〔一〕十反。〔二〕六十間。〔三〕まち。●市。

ちやチヨう 疔(名)　腫物の一種。顏に出づるものにて最も危險なるもの。

ちやチヨう 打。丁(感)　固きものを打つ音。—ちように同じ。△(副)—ちやうと。

ちやチヨう 長(名)　〔一〕長さ。●たけ。〔二〕すぐれたる事。●秀でたる事。〔三〕我より齡のたけたる人。〔四〕人の頭。〔五〕驛長。

ちやチヨう 帳(名)　物を記するため紙を綴ぢたるもの。●帳面。●帳簿。

ちやチヨう 帳(名)　〔一〕神前など扉の中に垂らしたる絹、布。●戸張。〔二〕昔し貴人の寢室に下げたる絹。帳臺。

ちやチヨう 張(名)　〔一〕張る事。〔二〕弓、琴などを數ふる

詞。

ちやうてう 挺(名) 又物乘物などの如きものを數ふる詞。

てうてう 朝(名) 〔一〕朝廷。〔二〕御代。●御宇。御時。〔三〕國。○「我朝」

てうてう 調(名) 〔一〕古へ諸國人民より租稅として朝廷に納めし土地の産物。〔二〕音樂の調子。〔三〕歌の口調。●しらべ。

てうてう 彫(名) ほり。

てうてう 兆(名) きざし。●前兆。

てうてう 蝶(名) 〔一〕虫の名。美しき四枚の羽をひらめかして春より秋まで花に狂ひ遊ぶ虫。〔二〕すべて之に似たる形のもの。

てうふ (後) と言ふの意。○古今「うたたねに戀しき人をみてしより夢てふものは頼みそめてき」

ぢやうぢやう 孃(名) 未婚の女子の敬語。

ぢやうぢやう 丈(名) 〔一〕一尺を十合せたるもの。〔二〕たけ。〔三〕俳優などの姓名に附けていふ。殿に似たる詞。

ぢやうぢやう 杖(名) 〔一〕つゑ。〔二〕古代刑罰の名。罪人をむちうつもの。笞の重き刑にて其數は六十より百に至る。

ぢやうぢやう 定(名) 〔一〕定まり。●定まり通り。○著聞「例のぢやうにしけるに」〔二〕眞實。●誠。●本當。○狂言「無いがぢやうか有るがぢやうか」

ぢやうぢう 錠(名) 物を鎖す金屬の道具。●鍵にて開閉するやうになりたるもの。

でうでう 條(名) すぢ。●箇條。●くだり。●件。

でうでう 條(副) 公文の詞。あひだの意。○「御用有之候條明何日出頭可致事」

でうふ 帖(名) 〔一〕折本。……法帖、畫帖の類。〔二〕屏風の一枚々々の面。○今昔「春の帖」……是は十二月屏風の春三月の處の一枚を云ふ。〔三〕疊、莚、紙など折り疊みたるものを數ふる詞。○「半紙五帖」

でふてう 疊(名) 疊を數ふる詞。○「八疊の間」

てうてう 朝衣(名) 朝廷に出仕する時の禮服。●朝服。

てうてう 朝意(名) 朝廷の御趣意。

てうてう 朝威(名) 朝廷の威光。

てうてう 吊慰(名) 死人の靈魂を吊らひ慰むる事。△(動)—吊慰す。

てういん　調印(名)　印判を押す事。●捺印。

てうろ　朝露(名)　朝おきたる露。

ぢょうろ　女郎(名)　遊女。●娼妓。

ちやうらう　長老(名)　〔一〕年の長じたる人。〔二〕寺にては和尚。〔三〕日本聖公會監督教會にては教職の一階級。日本基督教會、一致教會にては教會内にて事を取る役の名。(基督教)

てうろう　嘲弄(名)　あざける事。●馬鹿にする事。

ぢやうろく　丈六(名)　一丈六尺の略。佛の座像に云ふ詞。

ちょうろぎ　(名)　野菜の名。根は蠶の蛹に似たり。之を一月三箇日の煮豆などに入れ食す。

ちやうば　帳場(名)　店にて金錢の出入帳を取扱ふ處。

ちやうば　町場(名)　〔一〕昔し宿驛にて人夫に出づる時其當てられたる持場内を云ふ詞。〔二〕轉じて人力車夫などが我受持の區域内を云ふ詞。

てうば　調馬(名)　馬術の練習。

てうはい　朝拜(名)　朝賀に同じ。

ちやうはつ　長髮(名)　僧などの髮をのばす事。●蓄髮。

てふはながた　蝶花形(名)　紙にて美しく折りたる蝶の形。祝儀の銚子に飾るもの。

ちやうはんづきん　長範頭巾(名)　入道武者の着る一種の軍用頭巾。◎能樂にて熊坂長範が着る故の名。〔圖〕

ちやうにん　町人(名)　商人。

ちょうにん　重任(名)　國司任限滿ちて後引續き前職に任ずる事。△(動)―徵募す。

ちやうぼ　徵募(名)　召し募る事。

てうぼ　帳簿(名)　帳面。

ちやうぼ　朝暮(名)　あけくれ。●あさばん。

ちやうぼん　帳本(名)　〔一〕起り。●發頭。〔二〕帳本人。

ちやうぼんにん　帳本人(名)　發頭人。●首唱家。

ちやうはう　重寶(名)　〔一〕貴重なる寶物。〔二〕便利。

てうぼふ　調法(名)　調伏の作法。

てうばう　眺望(名)　ながめ。●けしき。

ちやうはうらく　長保樂(名)　雅樂の曲名。

ちやうはうけい（チヨウハウケイ）　長方形（名）　四角形の長きもの。

ちやうへい（チヨウヘイ）　徴兵（名）　全國丁年の男子を募りて兵役に就かしむる事。

ちやうど（チヨウド）　長途（名）　長の旅路。●遠路。

ちやうど（チヨウド）　丁度（副）　具合よく。●うまく。●あたかも。

てうど（テウド）　調度（名）　〔一〕手廻りの小道具。〔二〕武家にては弓矢。

でうど（デウド）　調度（名）　手廻りの小道具。（雅）

てうどり（テウドリ）　蝶鳥（名）　古代模樣の名。蝶と鳥とを畫かけるもの。

てうどかけ（テウドカケ）　調度懸（名）　〔一〕弓矢を懸け置く道具。〔二〕弓を持ちて主人の供する武家の下男。〔圖〕

てうどや（テウドヤ）　調度屋（名）　調度を入れ置く箱。（雅）

てふちよ（テフチヨ）　蝶蝶（名）　蝶に同じ。

てふちようぢよ（テフチヨウヂヨ）　長女（名）　第一の女子。●總領娘。

てふてふ（テフテフ）　蝶蝶（名）　蝶に同じ。

てふてふ（テフテフ）　喋喋（副）　べちゃ〳〵。（又）―喋々と。

ちやうでふ（チヨウデフ）　重疊（名）　手紙の詞。重々滿足の意。●珍重。○「重疊奉存候」

てふてふし（テフテフシ）　（形。形狀言シク活）　口やかまし。

ちやうちん（チヨウチン）　提灯（名）　夜道を行く時携ふる燈器。竹の骨に紙を張りて蠟燭を立つるもの。

ちやうちんもち（チヨウチンモチ）　提灯持（名）　〔一〕提灯を携へて夜道を案内する人。〔二〕他人事業の贊成家となりて世間に吹聽しあるく事。又は人。

ちやうちく（チヨウチク）　打擲（名）　人を打ちなぐる事。△（動）―打擲す事。又は人。

でうちう（デウチウ）　條虫（名）　腹に生ずる虫の名。さなだむし。

ちやうり（チヨウリ）　長吏（名）　〔一〕園城寺、勸修寺などにては寺務を執る僧の頭。〔二〕穢多の頭。

てうり（テウリ）　調理（名）　料理。

でうり（デウリ）　條理（名）　すぢみち。

ちやうおん（チヨウオン）　寵恩（名）　寵愛によりて受けたる恩德。

ちやうをん（チヨウヲン）　長遠（名）　月日の長く遠き事。○謠曲「壽命長遠」

てうおん　朝恩(名)　朝廷の御恩。

ちやわん　茶碗(名)　ちゃわんに同じ。○大和「菜を摘みて蒸物といふものにしてちゃうわんに盛りて」

ちやうか　長歌(名)　ながうたに同じ。○謠曲「長歌短歌」

てうか　町家(名)　町の家。●商家。

ちやうが　朝家(名)　皇室。

てうがひ　朝賀(名)　正月元日の辰の時に天皇大極殿に行幸ありて群臣之を拜賀する儀式。

ちやうかい　懲戒(名)　懲りさせ戒むる事。△(動)—懲戒す。

てうがひ　蝶貝(名)　貝の名。一名あこやがひ。

てうかく　釣客(名)　釣人。

でうがく　調樂(名)　重き儀式などの音樂ある時あらかじめ集まりて練習する事。○源氏「臨時の祭の調樂」

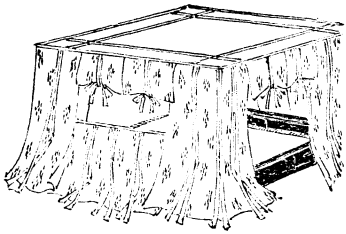
ちやうやう　重陽(名)　五節句の一つ。九月九日。此日菊の酒を汲みなどして祝ふ事あり。

てうやう　朝陽(名)　朝日。

てうよう　貼用(名)　證券印紙、郵便切手など入用の紙に貼り附くる事。△(動)—貼用す。

ちやうだい　項戴(名)　貰ふの敬語。△(動)項戴す。

ちやうだい　帳臺(名)　昔し貴人の寢室に設置したる臺。周圍には戸張を垂らしたり。〔圖〕



ちやうだいそく　長大息(名)　長く大なる溜息。嘆息の切なるもの。

ちやうだいのよ　帳臺の夜(名)　帳臺試の行はるゝ夜。

ちやうだいのこころみ　帳臺試(名)　ちゃうだいのしに同じ。

ちやうだいのし　帳臺試(名)　十一月中の丑の日天皇常寧殿の帳臺に出御ありて五節の舞姫の練習を天覽あらせらるゝ儀式。

てうだつ　調達(名)　調へ揃へる事。△(動)—調達す。

ちやうたん　長短(名)　長さと短さと。

ぢやうれい **でぢうれい** **てうれん** **ちようそ**

定例(名)　定式の例。●仕來りの通り。
條例(名)　箇條書を以てする規則。
調練(名)　練兵。
重祚(名)　御讓位ありたる天皇の再び御位に即かせ給ふ事。

てうづ

手水(名)　〔一〕顔、口。また手などを洗ふこと。〔二〕またこれを洗ふ水。〔三〕手を洗ふ意味より轉じて厠に行くこと。

てうづばち

手水鉢(名)　厠の口に手洗水を入れて置く鉢。

てふつがひ

蝶番(名)　屏風など折り疊む處を自由ならしむる仕方。或は金具を以てし又は紙にてもする。

ちやうづがけ

項頭掛(名)　烏帽子の上より掛くる紐。〔圖〕

てうづだらひ

手水盥(名)　手水をつかふ盥。

ちやうつけ

帳付(名)　〔一〕帳面に記す事。〔二〕帳付の役。

ちやうづけ

丁附(名)　書物に枚數を記す事。

ぢやうづめ

定詰(名)　詰切。

てうな **ちやうなん** **ちやうなみ** **てふむすび**

手斧(名)　てなのの轉。
長男(名)　總領むすこ。●長子。
町並(名)　町毎に。●ごの町でも。
蝶結(名)　糸結びの名。蝶の形に似たるもの。〔圖〕

てうくわ

超過(名)　度に越ゆる事。●定めより上に出づる事。△(動)—超過す。

ちやうくわん **でぢうくわん**

長官(名)　其役所の頭。
條款(名)　條件。

ちようくわうらく

重光樂(名)　雅樂の曲名。

ちようぐう

寵遇(名)　寵愛の深き待遇。

ちやうや **てうや** **ぢやうや**

長夜(名)　よなが。●ながきよ。
朝野(名)　上下一般。
長夜(名)　夜の長き事。……多く迷ある人生を長き暗夜に喩ふる時に用ふ。○謠曲「生死長夜の月の影無常の雲おほへり」

ぢやうやど **でぢうやく** **てうま** **ちやうまん**

定宿(名)　いつも泊る宿屋。
條約(名)　箇條書を以てする約束。●契約。
鳥馬(名)　鳥の名。鵜。(和名抄)
脹滿(名)　病の名。水腫にて腹の膨るゝ

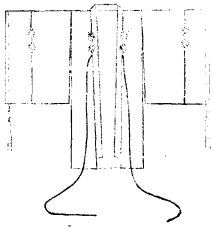
病。

ぢゃうまへ　錠前(名)　錠に同じ。

ちゃうけいし　長慶子(名)　雅樂の曲名。舞樂の終りに奏する曲。是には舞なし。

ちょうげつ　重結(名)　重なり合ひて結び附く事。○謠曲「邊涯一返の風よりおこつて水金二輪の重結あらはる」……大千世界の本は風輪にてそれより金輪水輪と云ふ地層が重なり結びつきたるなりと佛書に見ゆ。

ちゃうけん　長絹(名)　〔一〕昔は絹に四品ありて一を長絹、二を平絹、三を麁絹、四を細絹といへり。長絹すなはち其一つ。裝束などに主として用ひしものなる事は下に引く例にて知るべし。○保元「長絹の直垂」平家「長絹の袈裟」著聞「長絹の狩衣」太平記「長絹の衣」〔二〕裝束の名。もとは長絹の直垂と稱へて長絹にて作りたる故の名なりしが。後は生絹・紗・練などにても作る。直垂と同じ仕立にて袖括りあり紐あり菊綴あり。袴も直垂と異ならず〔圖〕〔三〕能裝束の名。右の長絹に同じ。唯異なるは袴の附屬せざる事のみ。



でうけん　條件(名)　箇條。●條款。

ちゃうけんし　長慶子(名)　ちゃうけいしに同じ。

ちゃうげんし　長慶子(名)　ちゃうけいしに同じ。

てうふ　調布(名)　調として人民より朝廷に納むる布。●たつくり。……調を見よ。

ちゃうぶ　町歩(名)　田畑などの反別を測る時の詞。町歩といふに同じ。

ぢゃうふ　丈夫(名)　ますらを。●男子。

ぢゃうふ　定府(名)　德川時代。大名又は其家來の江戸居附になりたるもの。……參勤交代に對して云ふ。

ぢゃうぶ　(名)　〔一〕壯健。〔二〕堅固。

ぢゃうぶそうし　長奉送使(名)　昔し齋宮の伊勢へ下り給ふ時之を送り奉る官使。

ちゃうぶつ　長物(名)　むだな物。

ちょうふく **てうふく**　重複(名)　二重になる事。△(動)—重複す。

てうふく　朝服(名)　古代官吏の朝廷に出仕する時の禮服。其一は束帶、其二は衣冠。

てうぶく　調伏(名)　惡魔を祈り伏せ。又は遺恨ある人を呪ひ殺す事。△(動)—調伏す。

ちょうこう　徵候(名)　前にあらはるゝしるし。●前兆。

てうこう　朝貢(名)　外國の來朝して貢物を獻る事。△(動)—朝貢す。

てうがふ　調合(名)　藥などを程よく交ぜ合す事。△(動)—調合す。

ぢやうごふ　定業(名)　定まりたる因緣。●天然の運命。

てうからく　鳥向樂(名)　雅樂の曲名。

てうこく　彫刻(名)　ほり。●ほりもの。

ちょうえき　懲役(名)　現今刑罰の名。其人を使役して勞働さする刑。罪の輕重により年限に長短の差あり。

てうてい　朝廷(名)　〔一〕國政を執る役所。●政府。●廟堂。〔二〕御所。●皇室。

てうてい　調停(名)　交和談判。

てうてき　朝敵(名)　朝廷に敵たふ賊。●國賊。

ちょうあい　寵愛(名)　寵に同じ。愛せらるゝ事。●愛する事。△(動)—寵愛す。

ちょうあひ　帳合(名)　金錢出入の帳面の調査。

ちょうあく　懲惡(名)　他の惡を懲るゝやうにする事。

てうふあし　蝶足(名)　蝶の羽に似たる膳の足。

てうさ　調査(名)　とりしらべ。

ちやうさ　長者(名)　〔一〕一寺の座首の僧。○「東寺の長者」〔二〕其氏の總理。○「源氏の長者」

ちやうざ　長座(名)　長居。●長尻。

てうさ　超歲(名)　手紙の詞。年を越す事。●年重ね。○「皆々樣目出度御超歲被遊」

てうざい　調劑(名)　藥の調合。△(動)—調劑す。

ぢやうざい　杖罪(名)　刑罰の名。……杖を見よ。

ちょうさん　重三(名)　三の數を重ぬる意にて◎三月三日。●上巳。

てうさん　朝參(名)　參內。

てうさんだいふ　朝散大夫(名)　從五位下の異名。

てうぎ　朝儀(名)　朝廷の儀式。

ぢやうぎ　定木。定規(名)　線など眞直に引くための當て木。

ちやうきちぶね　長吉船(名)　今日いふちょきぶねの

こと。……江戸砂子に曰く。「山谷がよひの小船は長吉といふ者つくりいだせし故ちゃうきちぶねといひたるを。いつの頃よりかちょきぶねといひならし。文字さへ猪牙と書きかへたり」

てうきん 朝覲(名)　〔一〕天皇が上皇母后に御拜謁あらせらるゝ事。〔二〕皇太子が天皇に御拜謁あらせらるゝ事。〔三〕將軍大名などの天皇に拜謁する事。

ちゃうぎん 丁銀。挺銀(名)　慶長年中に鑄られたる銀貨。

てうきんのぎ うかう 朝覲行幸(名)　天皇正月元日に行はるゝ儀式。上皇、母后、の御所に御年始御拜謁のための行幸。

ちょうきう 重九(名)　九の數を重ぬる意にて◎九月九日。●重陽。

ちゃうきう 長久(名)　長く久しき事。

ちゃうめい 長命(名)　ながいき。●長壽。

てうめい 朝命(名)　朝廷の御命。

ちゃうめいぢょう 長命女兒(名)　雅樂の曲名。

ちゃうめん 帳面(名)　帳。●帳簿。

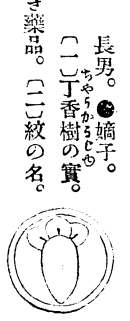
ぢゃうめん 定免(名)　定式の免稅。

てうみ 調味(名)　食味の調合。

ぢゃうみゃう 定命(名)　定業によりて限られたる壽命。(佛教)

ちゃうし 長子(名)　長男。●嫡子。

ちゃうじ 丁子(名)　〔一〕丁香樹の實。香の高き藥品。〔二〕紋の名。



〔圖〕

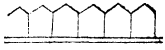
ちゃうじ 停止(名)　暫く差止むる事。○「鳴物停止」

てうし 調子(名)　〔一〕音樂の音調。●しらべ。〔二〕具合。●あんばい。○「此調子ならは大丈夫」〔三〕舞樂にて舞人の出づる時など吹き立つる雅樂の一種の奏法。

てうし 銚子(名)　〔一〕酒を入るゝ器。口あり蓋あり手ありて多くは金屬にて作れるもの。〔二〕德利をも云ふ。

ちゃうじいろ 丁子色(名)　香の色に同じ。

ちゃうじがしら 丁子頭(名)　〔一〕行燈などの燈心の先が結ばりて丁子に似たる形をなす事あり。之を云ふ。丁子頭の出來たる翌日は吉事ありとて



ちやうしよ

「丁子々々吉丁子」など稱へて祝ふ處あり。

ちやうじやう

〔二〕鎧の札の名。〔圖〕

長所(名)　他に勝れたるところ。(英)特點。

ちやうじやう

長上(名)　京都に永住して朝廷に出仕する官吏。＝ながづかへに同じ。

ちやうじやう

項上(名)　いたゞき。(反)絶項。

ちやうじぞめ

丁子染(名)　香染の一名。……その處を見よ。

ちやうじつ

長日(名)　日なが。(反)遲日。

ぢやうじつ

定日(名)　定まりたる日。

ちようしん

寵臣(名)　氣に入りの家來。

ちやうしん

長身(名)　たけの高き人。

てうしん

朝臣(名)　朝廷に奉仕する臣下。

てうしん

調進(名)　調へ作りて進上する事。〇謠曲「總じて此浦を阿漕が浦と申すは。伊勢大神宮御降臨よりこのかた。御膳調進の網を引く處なり」

ぢやうじん

丈人(名)　長老の尊稱。

ちやうしや

長者(名)　我より齡のたけたる人。

ちやうしや

長者(名)　〔一〕ちやうさに同じ。(英)僧または氏の頭。〔二〕驛長。〇「矢矧の長者」「池田の宿の長者」〔三〕金滿家。(英)富人。

てうしぶえ

調子笛(名)　律管の一名。

ちやうじかう

丁子香(名)　丁子にて製したる藥品。

ちやうじゑん

丁子圓(名)　香の名。丁子にて煉りたるもの。

ぢやうしき

定式(名)　一定の儀式。(反)定まり通り。

ちやうしゆ

長酒(名)　酒を長く飲む事。(反)跡引上戸。

ちやうじゆ

長壽(名)　ながいき。(英)長命。

ちやうじゅん

聽衆(名)　說法などの聽聞者。〇謠曲「ちやうじゅの人音」

ちやうしふ

長春(名)　薔薇の一種。四季絶にず花さくもの。(英)いばらぼたん。

ちやうしう

徵集(名)　めしあつむる事。△(動)―徵集す。

ちやうしう

長秋(名)　〔一〕皇太后宮職の異名。〔二〕又其官吏をも云ふ。……藤原俊成の家集を長秋詠藻と稱ふるは其官皇太后宮太夫なりしが故なり。

ちやうじゅう

聽衆(名)　演說などの聽聞者。

てうじゅう

鳥銃(名)　鳥打用の小銃。

ちゃうじびき 丁子引(名) 襖地の紙などに茶色の細筋を引きたるもの。

ちゃうび 丁日(名) 偶數の日。……二日、四日、十日、廿日の類。

ちゃうびゃう 長病(名) ながわづらひ。

ちゃうびきゃく 定飛脚(名) 定期に出立する飛脚。

ちゃうもん 聽聞(名) 講義、說法、演說、音樂、歌曲など聞く事。△(動)—聽聞す。

ちゃうもん 定紋(名) 其家の印の紋。……北條家には三鱗、島津家には轡の類。

てうもく 鳥目(名) 穴のある錢の異名。◎其形鳥の眼に似たる故の名。

でうもく 條目(名) 箇條書。●筋立の目錄。

ちゃうせい 長生(名) 長命。●長壽。

ちゃうせい 長逝(名) 死去。●遠逝。

ちゃうせいらく 長生樂(名) 雅樂の曲名。

ちゃうぜつ 長舌(名) 舌の長き事。●おしやべり。●佞辨家。

てうぜん 超然(副) すぐれて。●こゝにすゝみて。(又)—超然と。

てうぜん 惆然(副) しほ〳〵と。●かなしげに。(又)—惆然と。

てうせんまつ 朝鮮松(名) 唐松の一名。

てうせんあさがほ 朝鮮朝顏(名) 曼陀羅華の一名。

てうせんあめ 朝鮮飴(名) 飴の一種。翁飴と同種のもの。

ちょうす 徵(他動サ變) 〔一〕召す。●呼び立つる。〔二〕證を取る。

てうす 吊(他動サ變) とむらふ。●悼む。

てうす 朝(自動サ變) 參內する。

てうふす 牒(自動サ變) 通牒する。●示し合はせる。

ちゃうす 打(他動サ變) 打擲する。

てうす 調(他動サ變) 〔一〕とゝのふる。●器物など調製する。〔二〕食物を調理する。〔三〕藥を調合する。

ちゃうす 長(自動サ變) 生長する。●人となる。●すぐるゝ。

ちょく 猪口(名) 陶器の小さき盃。

ちょく 勅(名) 天皇の仰せ。●みことのり。●君命。

ちょく 直(名) 直線。●正直。

ちょくろ 直廬(名) 昔し禁中にて攝政、關白、大臣、大納言の休憩宿直したる詰所。

ちょくにん 勅任(名)　勅命にて任免する官吏の資格。
ちょくたふ 勅答(名)　天皇の御返事。
ちょくちょう 直腸(名)　腸の一部にて肛門に接する處。
ちょくぢょう 勅諚(名)　勅命。
ちょくりつ 直立(名)　眞直に立つ事。
ぢょくわん 女官(名)　禁中、院、宮の御所などに奉仕する女。●官女。
ちょくか 直下(名)　眞下。●すぐ下。
ちょくかつ 直轄(名)　直接の管轄。
ちょくかん 勅勘(名)　天皇よりの御勘當。
ちょくかん 直諫(名)　直接に憚からず述ぶる諫言。
ちょくかく 直角(名)　十文字の行き違ひたる角の如き處。
ちょくがく 勅額(名)　勅筆の額面。
ちょくれい 勅令(名)　勅命によりての布令。
ちょくん 儲君(名)　まうけの君。●皇太子。
ちょくぐん 勅願(名)　神佛へ天皇よりの御祈願。
ちょくぐわんじ 勅願寺(名)　勅願によりて創建せし寺。
ちょくぐわんしよ 勅願所(名)　平常勅願を執行する寺。
ちょくやく 直譯(名)　外國語原文のまゝに翻譯する事。

ちょくけい 直經(名)　さしわたし。
ちょくげん 直言(名)　眞直に憚らず云ふ言語。●諫言。
ちょくふ 勅符(名)　勅語の書面。●勅令。
ちょくふう 勅封(名)　勅命によりて倉庫などに封印を附けおく事。
ちょくご 勅語(名)　天皇の仰せ。●みことのり。
ちょくかう 直行(名)　寄り道せずまっすぐに行く事　△(動)―直行す。
ちょくさい 勅祭(名)　勅命によりて行ふ祭禮。
ちょくさい 勅裁(名)　天皇の御裁決。
ちょくきょ 勅許(名)　天皇の御ゆるし。
ちょくめい 勅命(名)　天皇の仰せ。●勅諚。●みことのり。
ちょくし 勅使(名)　勅命を傳宣する使。●天皇の御使。
ちょくし 勅書(名)　勅命を記したる書。
ちょくじゅ 勅授(名)　古代の制。五位以上の位は天皇親らこれを授け給ふ故に之を勅授と云ふ。
ちょくひつ 勅筆(名)　天皇の御自筆。●宸筆。
ぢくひつ 直筆(名)　憚からずに其人または社會の非なご文に書く事。
ぢくせ 濁世(名)　濁りたる世界。人間界の事。(佛教)

ちくぜい 直税(名) 國庫へ直接に納むる租税。

ちくせつ 直接(名) 間に物の隔たらざる事。●ぢきつけ。

ちくせん 勅宣(名) みことのり。

ちくせん 勅撰(名) 〔一〕勅命により書を撰述する事。……多くは歌集に云ふ。〔二〕其撰述したる書。

ちくせん 直線(名) まがらぬ線。

ちゃや 除夜(名) 十二月最終の夜。●大晦日の晩。

ちょけい 女兄(名) 姉。

ちょふ 婦女(名) 婦女。●をんな。○謠曲「綾女糸女の女婦を添へ」

ちょふく 女服(名) 女の衣服。

ちょふく 除服(名) 〔一〕喪服をぬぐ事。〔二〕今日にては官より忌服引籠を免さるゝ事。

ちょこれえと (名) 英語より來る。◎舶來品にて珈琲などのやうに湯に入れて飲む芳ばしき物。

ちょこう 女工(名) 女の職工。

ちょこう 女紅(名) 女の手にてする仕事。

ちょこうば 女紅場(名) 女紅の仕事場。

ちょてい 女弟(名) 妹。

ちょさく 著作(名) 〔一〕書物を作る事。〔二〕其作りたる書。

ちょき (名) ちょきぶねの略。

ちょぎ 千代木(名) 松の異名。

ちょきん 貯金(名) 金錢の貯蓄。●貯蓄せる金錢。

ちょきぶね 猪牙船(名) 小舟の一種。細長くして川に用ふるもの。……長吉船を見よ。

ちょめい 著名(名) 高名。●有名。

ちょめい 除名(名) 其人員中より姓名を除く事。

ちょみぐさ 千代見草(名) 菊の異名。

ちょじ 儲貳(名) 儲君。●皇太子。

ちょじ 女子(名) 〔一〕をんな。〔二〕女の小兒。

ちょし 女史(名) 女の文人。又は畫師。

ちょじ 女兒(名) 〔一〕をんな。〔二〕女の小兒。

ちょしょ 著書(名) 著はしたる書物。

ちょしょく 女色(名) 〔一〕女の容貌。〔二〕女色に迷ふ事。

ちょじつ 除日(名) 十二月最終の日。●大晦日。

ちょしゃ 著者(名) 著述なしたる人。●作者。

ちょじゅつ 著述(名) 書物を著はし述ぶる事。●著作。

ちょじゅつか 著述家(名) 常に著述を爲す人。

ちょせい 女性(名) 女たるべき性質。

ぢょせき 除籍(名) 戸籍より除名する事。

ぢょす 除(他動サ變) 〔一〕のぞく。●取りのける。〔二〕任官する。〔三〕算術にて數を割る。

ちたい 遲滯(名) おくれとどこほる事。△(動)—遲滯す。

ぢだい 地代(名) 地價。●土地の借賃。

ちだり (名) 上古家屋の棚出し。(祝詞式)

ちだらけ (名) 血まぶれに同じ。

ちたび 千度(副) 幾度も。●たびく。●しばく。

ちそ 地租(名) 所有地より納むる租稅。

ちそう 地層(名) 地質學にて大地の成立に新舊の段階あるを云ふ詞。切岸などに段だら筋の如くあらはれ居るもの。

ちそう 馳走(名) 〔一〕奔走。〔二〕饗應。……△(動)—馳走す。

ぢそう 持僧(名) 護持僧に同じ。天皇の御祈禱に出仕する僧。

ぢざう 地藏(名) 地藏菩薩の略。

ぢざうぼさつ 地藏菩薩(名) 冥途の六道にありて死者を能化する佛の名。

ぢざうそん 地藏尊(名) 地藏菩薩に同じ。

ちそく 遲速(名) 遲さと速さと。

ちつ 帙(名) 書物を入れ置く厚紙の包。

ちづ 地圖(名) 地球の圖面。●土地の畫圖。

ちつぼ 地坪(名) 地面の坪數。

ちっと (副) ちと。●少し。●少々。

ぢっと (副) 靜に。

ちっとも (副) 打消の助動詞を呼び出す詞。●すこしも。○「ちっとも動かず」

ちつか 千束(名) 千本。●千把。……錦木を參考せよ。○堀川「思ひかね今日立てそむる錦木の千束もまたで逢ふよしもがな」

ちつかのちぎり 千束の契(名) 男女の容易に逢ひがたきをいふ。……錦木を見よ。

ちっそ 窒素(名) 化學上の元素の一つ。大氣五分の四の成分を爲すもの。

ちつけ 乳附(名) 當座小兒に乳を呑ましむる女。……長く之を役とするものたば乳母と云ふ。○空穗「左大辨の北の方御ちつけ」

ちっぢよ 蟄居(名) 〔一〕家に閉ぢ籠る事。△(動)—蟄居す。〔二〕德川時代の刑罰。閉門して一室に幽居せしむるもの。

ぢっきん 昵近(名) ぢかづき。●親睦の中。△(動)―昵近す。

ちつじょ 秩序(名) 正しき順序。

ちっす 蟄(自動サ變) 閉ぢ籠る。●巣ごもる。

ぢなり 地鳴(名) 土地の震動。

ぢならし (名) 家など建つる前に地面を平にする事。

ちなむ 因(自動四段) ゆかりにたよる。●縁故をあてにする。

ちなみ 因(名) 〔一〕ゆかり。●因縁。●縁故。〔二〕序。●「因に曰ふ」

ぢらいくわ 地雷火(名) 破裂彈の仕掛を地下になしたるもの。

ちらばる (自動四段) 散亂する。●ちらかる。

ちらと (副) ちょつと。●ちらりと。

ちらちら (副) 細きもの〻散り亂るゝ有樣。(又)―ちらゝと。

ちらりと (副) ちょつと。●ちらゝと。

ちらかる (自動四段) 散る。●散りぼふ。●散亂する。

ちらつく (自動四段) ちらゝする。

ちらん 治亂(名) 治と亂と。

ちらふ 散(自動四段) 散るに同じ。○萬葉「花ちらふあきづの野邊に」

ちらし 散らし(名) 〔一〕散らす事。●散らして置きたる形模樣。●散らして配る廣告札。〔二〕散らしがきの略。〔三〕麥こがし。●はったい。

ちらしがき 散書(名) 歌、文など行を逐うて規則立ち書かずして上下左右など散り亂れたる如く認むる一種の書法。……女の文かき歌かく時多く此法を用ふ。

ちらしがみ 散髮(名) さんばつ。●亂髮。

ちらしよね 散米(名) さんまいに同じ。

ちらしだいこ 散太鼓(名) 芝居などの終を報ずる太鼓。見物人を散らす故の名。

ちらすつゑ 散杖(名) さんぢゃうに同じ。僧の用具。○夫木「おこなひにそゝぐ水こそ氷りぬれちらすつゑにて打ちたゝけども」

ちん 亭(名) あづまや 東屋。

ちん 鴆(名) 毒藥の名。孔雀の羽を酒に浸して飲むものとも云ひ。又一種の鳥なりとも云ふ。

ちん 狆(名) 小犬の一種。

ちん 賃(名) 仕事の手間代。又物の損料。

ちん 珍(名) めづらしき事。●めづらしき物。

ちん 鎮(名) しづめ。●鎮撫。●鎮臺。

ちん 朕(代) 天子みづから其御身を指して宣ふ詞。●われ。

ぢん 沈(名) 沈香の略。○「沈の火桶」「沈の机」「沈の櫛」「沈の枕」

ぢん 陣(名) 〔一〕陣立。〔二〕陣屋。〔三〕朝廷にて官吏の詰所。○「北の陣」「帶刀の陣」

ぢん 塵(名) ちり。

ちんば 跛(名) 片足不完全なるもの。●びっこ。

ぢんばおり 陣羽織(名) 軍服の一種。鎧の上に着る袖の無き羽織。〔圖〕

ぢんばらひィ 陣拂(名) 陣の引上。●退陣。

ちんぼつ 沈沒(名) 船の沈む事。△(動)—沈沒す。

ぢんぼつ 陣沒(名) 戰死。●討死。△(動)—陣沒す。

ちんぽん 珍本(名) 稀なる書物。

ちんぱう 珍寶(名) 得がたき寶。

ぢんどり 陣取(名) ぢんどる事。

ぢんどる 陣取(自動四段) 軍隊を整列さする。●陣を構ふる。

ぢんとう 陣頭(名) いくさゝき。

ちんどく 鴆毒(名) 鴆に同じ。

ちんちろりん (感) 鈴虫の鳴聲。

ちんちゃう 珍重(名) 大切にする事。●秘藏する事。●賞玩する事。●結構。●恐悅。

ぢんちゃうげ 沈丁花(名) 木の名。葉も枝も三股に出でゝ春の頃紅白の花咲く。極めて香ばし。

ちんちんばたばた (感) 刀にて切り合ふ音。(狂言)

ちんちゃく 沈着(名) おちつき。

ちんりん 沈淪(名) しづむ事。△(動)—沈淪す。○謠曲「生死の海に沈淪せり」

ぢんがひィ 陣貝(名) 陣中にて兵の進退を指揮する法螺の貝。

ぢんがね 陣鐘(名) 陣中にて兵の進退を合圖する鐘。

ぢんがさ 陣笠(名) 昔し軍陣にて將卒の被る一種の笠。大將のは平たくて上にソリあり。兵卒のは山形にて頂に少し尖りあり。〔圖〕

ちんだい 鎮臺(名) 其地方を鎮撫するための陣營。現今東京、仙臺、名古屋、大坂、廣島、熊本にあり。

ぢんだい 陣代(名) 德川時代の役の名。代官。

ぢんだいこ 陣太鼓(名) 軍陣にて兵の進退を合圖する太鼓。〈圖〉

ちんだん 珍談(名) めづらしき話。

ぢんだて 陣立(名) 兵の勢揃。●隊伍の組織。

ちんれつ 陳列(名) 品物をならぶる事。△(動)—陣列す。

ちんざう 珍藏(名) 秘藏。

ぢんそう 陣僧(名) 足利時代の例として陣中に必ず一人づゝ伴ひたる僧。

ぢんのざ 陣座(名) 禁中にて儀式の時上卿の着座する座席。

ちんくわ 鎮火(名) 火事の鎮まる事。

ちんくわさい 鎮火祭(名) ひしづめのまつりを見よ。

ぢんや 陣屋(名) 〔一〕左衛門の陣または右衛門の陣。〔二〕陣中にて將士の休む小屋。

ぢんまく 陣幕(名) 陣屋に張る幕。

ちんぶ 鎮撫(名) 其土地を鎮めて人民を撫で安んずる事。△(動)—鎮撫す。

陳腐(名) 古めかしくて役に立たぬ事。

ちんぷれ 陣觸(名) 出陣の沙汰。

ちんぶつ 珍物(名) 得がたき品物。

ちんこんさい 鎮魂祭(名) たましづめのまつりを見よ。

ぢんかう 沈香(名) 熱帶地方に產する香木の名。◎水に入りて浮くを淺香(せんかう)と云ひ重くて沈むを沈香といふ。

ぢんごや 陣小屋(名) 陣屋。●陣營。

ぢんゑ 塵穢(名) 塵埃などのよごれ。●けがれ。

ぢんえい 陣營(名) 陣屋。●軍營。

ちんでん 沈澱(名) 水の底に物のおどむ事。△(動)—沈澱す。

ぢんあい 塵埃(名) ちりほこり。

ちんざ 鎮座(名) 神靈の永久に留まる事。△(動)—鎮座す。

ちんき 珍奇(名) めづらしき事。

ちんき 丁幾(名) 醫家の詞。藥のアルコールに溶解したるもの。

ちんゆう 沈勇(名) 落着いて勇氣ある事。

ちんみ 珍味(名) 得がたき風味の食物。●御馳走。

ちんし 鎮子(名) 物の重しに置くもの。(和名抄)

ちんじ 珍事。椿事(名) 不思議の事。●變事。●大事件。

ちんしょ 珍書(名) 稀なる書籍。

ぢんし 陣所(名) 陣屋。●陣營。

ちんじゃう 陳情(名) 事情を述べ立つる事。

ちんじゃ 鎮守(名) 〔一〕兵を以て其地を鎮め守る事。〔二〕其村其町を守護する神。○「鎮守の社」

ちんじつ 陳述(名) 言語にて述べ立つる事。△(動)—陳述す。

ちんじゅふ 鎮守府(名) 〔一〕古のは蝦夷の地を鎮守するための兵營。陸奥の國膽澤郡にありて軍務政務を兼ね行ひたるもの。官吏は將軍、副將軍、軍監、軍曹の四等あり。〔二〕今のは海軍の所屬にて海防のために置かるゝ兵營。横須賀、吳、佐世保、舞鶴、室蘭の五所にあり。

ちんぴ 橙皮(名) 柑子蜜柑などの皮を刻みたるもの。藥種または食物の藥味に用ふ。

ちんもち 賃餅(名) 餅の賃搗。

ちんもく 沈默(名) だまって居る事。

ちんぜい 鎮西(名) 九州の異名。◎鎮西府より出でたる詞。

ちんぜいふ 鎮西府(名) 古へ外患を防ぐため九州に置かれし陣營。廢せられて後は太宰府を云ふ。

ちんせつ 珍說(名) 奇說。

ちんせん 賃錢(名) 仕事の手間料。

ぢんせん 陣扇(名) 大將の持つ團扇。●軍扇。●軍配團扇。

ちんず 陳(他動サ變) 述ぶる。●言譯する。

ぢんすゐ 沈水(名) 沈香より取りたる一種の香。

ぢんずゐかう 沈水香(名) ちんずゐに同じ。チュウと發音する詞はちゆの處にあり。

ちう 地謠(名) 能樂にてシテ、ワキ等役者の外に座して謠を同吟する人。

ちうたひ 血膿(名) 血に交りて出る膿汁。

ちうみ 乳牛(名) 乳を取るために飼ひ置く牛。

ちうし (形) ちひさきの音便。○枕「ちうせい折敷」

ちうせい 地乘(名) 馬術の詞。地道の乘方。

おのり 千箟入の靭(名) 多數の矢を入るべき靭(記)

ちのりのゆぎ 茅輪(名) 六月祓の時神社などにて大きく作れる茅の輪。參拜の人々の潜り拔けて疫病除の呪となす。

ちのわ 血道(名) 〔一〕脈管。〔二〕婦人病の名。血さ

ちのみち

わぎのしてのぼせる病。

ちのみご 乳呑兒(名) 母の乳を呑む年齢の小兒。

ちのしほ 地の鹽(名) 基督教にて信者を云ふ。

ちく 畜(名) 家畜。

ちぐ 値遇(名) ちぐうに同じ。○謠曲「言葉をかはす ちぐの緣」

ぢく 軸(名) 〔一〕丸くて廻るもの又は卷くものゝ心棒。○「車の軸」「卷物の軸」〔二〕懸物。●卷物。〔三〕筆の柄。〔四〕以上すべての軸に似たる形のもの。

ちくいち 逐一(副) 一つ〳〵に。●おひ〳〵。(又)—ちくいちに。

ちくろと (名) 虫の名。こほろぎに同じ。○夫木「きらぬだに草の枕は露けきに爭ひて鳴く夜半のちくろと」

ちくば 竹馬(名) 童子の遊戯品。たけうま。

ちくはつ 蓄髮(名) 僧などの髮を立つる事。△(動)—蓄髮す。

ちくばのと 竹馬の友(名) 子供友達。

ちくはく 竹帛(名) 支那にては竹の札と布帛の類を紙に代用せし事ある故◎書物。

ちぐはぐ (名) 不揃。△(形)—ちぐはぐの。(副)—ちぐはぐに。

ちくたう 竹刀(名) 擊劍の道具。しなひ。

ぢぐち 地口(名) 或る文句と語路口調の近き文句を言ふ文藝上一種の遊戯。……「三俵の小蕪」といひて「三條の小鍛冶」と聞かせ。「桂馬歩を助ける」といひ「藝は身を助ける」と聞かするの類。

ちくでう 逐條(副) 一條々々と順を逐うて。

ちくりんらく 竹林樂(名) 雅樂の曲名。葬儀などに奏するもの。

ぢぐる (自動四段) 地口を言ふ。德川時代の末期流行せし詞。

ちくるゐ 畜類(名) 畜生。

ちくわ 竹輪(名) 丸竹の串に叩きたる魚肉を附けて燒きたるもの。

ちくわ 智火(名) 佛の智惠もて衆生の苦を救ふを火の氷を解くに喩へて云ふ。○謠曲「紅蓮大紅蓮なりとも。名號智火には消ねぬべし」

ちぐわいほふけん 治外法權(名) 法律上の詞。一國の領土の外に其國より及ぼし得る主權。

ちくえきふ 竹葉(名)　酒の異名。

ちくそ 血糞(名)　病の名。赤痢。(名和抄)

ちくらおきど 千座置戸(名)　祓の具を載せ置く臺。多くの意にて千座と云ふ。(祝詞式)

ちくらのたきくら 千座置座(名)　ちくらおきどに同じ。

ちぐう 値遇(名)　佛縁に因りて不思議の出會を爲す事。●であひ。●會合。○謠曲「多年値遇の御結縁」

ちぐう 知遇(名)　我を知りてする特別の待遇。

ちくの 知久篭(名)　矢の一種。信州知久の地より出づる竹にて作れるもの。

ちくふじん 竹婦人(名)　夏暑き時抱きて寐る籠。

ちくえん 竹椽(名)　たけねん。

ちくゑん 竹園(名)　親王の異名。……たけのそのを見よ。

ちくでん 逐電(名)　脱走。●逃亡。△(動)―逐電す。

ちぐさ 千草(名)　〔一〕數種の草。〔二〕特には秋の野に花さく色々の草。

ちぐさ 千種(名)　色々の種類。●種々。

ちぐさい 蓄財(名)　金錢を蓄ふる事。●貯蓄の財産。

ちくし 竹枝(名)　其土地の風俗を作りたる絶句の詩。また和歌の題にも同じ意味にて用ふ。

ちくし 竹紙(名)　〔一〕竹の中の薄皮。〔二〕紙の名。薄檽の一種。殊に薄くして竹の薄皮に似たるもの。

ちくじに 逐次に(副)　一つ〳〵に。●おひ〳〵に。●順々に。

ちくしやうしやう 畜生(名)　〔一〕人間を除きて其他一切の動物。〔二〕畜生道の略。

ちくしやうだう 畜生道(名)　六道の一つ。此に生るゝものは畜生の體を受けて常に相呑嚙するの苦患ありといふ世界。(佛教)

ちくへう 竹豹(名)　虎。……太刀の尻鞘などに用ふる時云ふ詞。

ぢぐも 地蜘蛛(名)　土蜘蛛に同じ。

ぢくもの 軸物(名)　懸物。●卷物。

ちくすゐじつ 竹醉日(名)　五月十三日を云ふ。此日支那にては竹を植ゑ祝ふ事あり。

ちや 茶(名)　〔一〕木の名。五六月の頃新芽を摘み採り製して飲料と爲すもの。冬の初め白色黄蘂の花さく。〔二〕之を製して飲料と爲したるもの。〔三〕茶の煎じ汁に似たる色の名。●茶

色。

ちゃ　（助動）　ぢゃに同じ。上の音の詰りたる時に用ふ。○「面白いこっちゃ」（俗）

ぢゃ　（助動）　である。●だ。……文語にてはなりと云ふ處。○「是は面白い事ぢゃ」（俗）

ちゃいろ　茶色（名）　茶の煎じ汁に似たる色の名。其濃淡によりて濃茶白茶等の名あり。

ちゃいれ　茶入（名）　末茶を入るゝ器。

ちゃろ　茶爐（名）　茶の湯の釜を掛くる圍爐裏。

ちゃばなし　茶話（名）　茶飲話。

ちゃばん　茶番（名）　〔一〕茶を客などに出だす役。〔二〕茶番狂言。

ちゃばんきゃうげん　茶番狂言（名）　芝居の仕組、聲色、身振などを眞似て終にシャレの落を取る一種の狂言。席上などにて行ふもの。立茶番、口上茶番、食物茶番、引摺茶番、袂茶番などの種類あり。……茶番狂言早合點に曰く。「酒番といふものあり、或老人の云、芝居大入の時は當振舞の外に催すことなり、これは三階中二階に役者おの〳〵聚會して、思ひ〳〵に酒肴を調へ、日々の勞を慰る宴なり、されど酒肴をたゞに出さんも風情なしとて、其時〳〵の狂言によせ、又は役割などによそへて種々の題を出し、其むれの人々に先配りわたす、さてありて題を得たる人々、さま〴〵に趣向を考へ、或はをかしみにて興を設け、或は理窟にて笑を取り、彼貯へし酒肴を携出、かはる〴〵趣向を演べ順番に勤ることなり、さて連中悉く終りて後、其景物をひらき大宴を催す、しかるに享保の頃、元祖澤村宗十郎訥子座頭なりし時、我等は元より下戸なれば酒番はおもはしからず、菓子を景物にして以來茶番を催すべしとありければ、一座同意して敷に從ひしとなん、尤是は酒番ある間々に行ひけるよし、しからば茶番といふ名目は、元祖訥子が號る所にして此戯業の祖子ともいふべし、今このみて茶番狂言する人等は、高祖と崇めて可ならんか、いふてもいはひでもの事ハレやくたいもない」

ちゃばしら　茶柱（名）　茶碗につぎたる茶の中に茶の莖の浮びたるもの。

ちゃにす　（他動サ變）　馬鹿にする。●愚弄する。●蔑視する。（俗）

ちゃぼ　矮鶏（名）　鶏の一種。

ちゃぼん　茶盆（名）　茶器を載する盆。

ちゃぼうき　茶箒（名）　末茶を立つる時爐のあたり掃ふ羽箒。

ちゃばうじ　茶焙（名）　葉茶を焙する道具。

ちゃばうず　茶坊主（名）　剃髪にて大名の前に茶の給仕などするもの。

ちゃべんたう　茶辨當（名）　茶器と辨當とを入れて大名など外出の時に持たしむる道具。に似て棒にて擔ぐやうになりたるもの

ちゃたう　茶湯（名）　佛前に供ふる煎じ茶。

ちゃだう　茶道（名）　茶の湯の術。

ちゃだうぐ　茶道具（名）　茶の湯の道具。●茶器。

ちゃたうび　茶湯日（名）　其佛に茶湯をする定日。●命日。

ちゃり　血鎗（名）　血の附きたる鎗。

ちゃり　（名）　滑稽。

ちゃれうう　茶寮（名）　茶室。●茶座敷。

ちゃれうう　茶料（名）　茶代。

ちゃる　（自動四段）　滑稽を言ふ。

ちゃるめら　（名）　支那朝鮮の昔の樂器。喇叭の如くにて管の眞直なるもの。●唐人笛。

ちゃわ　茶話（名）　茶飲話。

ちゃわん　茶碗（名）　茶を飲み又は飯を食ふに用ふる陶製の器。

ちゃわんむし　茶碗蒸（名）　料理の名。魚鳥肉野菜等を茶碗に入れ蒸して玉子とぢにしたるもの。

ちゃわんもり　茶碗盛（名）　料理の名。魚鳥肉などを茶碗に盛りたる澄し汁の羹。

ちゃわくわい　茶話會（名）　茶話を以てする親睦會。

ちゃかっしょく　茶褐色（名）　黑みの強き茶色。●鳶色。

ちゃがら　茶殼（名）　茶糟。

ちゃがま　茶釜（名）　茶を煎ずる爲の釜。飯を炊くものよりは口の處甚しく狹し。

ちゃがゆ　茶粥（名）　煎出したる茶を入れて味を附けたる粥。

ちゃかす　茶糟（名）　茶の煎じ糟。●茶がら。

ちゃかす　（他動四段）　愚弄する。●腮であしらふ。●茶にする。

ちゃだい　茶代（名）　〔一〕葉茶の代金。〔二〕飲みたる茶の

禮金。……多くは茶屋宿屋などにて定まりの拂の外にする事。

ちゃだい 茶臺(名) 煎茶々碗を載せて客に出だす臺。

ちゃだんす 茶簞笥(名) 茶器を入れ置く簞笥。

ちゃたく 茶托(名) 茶臺。

ちゃそば 茶蕎麥(名) 挽茶を入れて打ちたる蕎麥。

ちゃぞめ 茶染(名) 茶色に染むる事。●茶色に染たる物。

ちゃつぼ 茶壺(名) 葉茶を入れ置く壺。

ちゃづる (自動四段) 茶漬を食ふ。德川末期時代の流行詞。(俗)

ちゃづけ 茶漬(名) 茶を掛けて食ふ飯。●冷飯。

ちゃつみ 茶摘(名) 茶の新芽を摘む事。

ちゃつみうた 茶摘唄(名) 茶摘をする女などの歌ふ一種の唄。

ちゃんと (副) きちんと。●しっかりと。●きっぱりと。

ちゃんちゃん (名) (一)支郡人の異名。(二)支那人の髮の結方。(三)袖無羽織。

ちゃんちゃんと (副) ちゃんと。

ちゃんちゃんばうず (名) 支那人。●支那人の頭。

ちゃんぎり (名) 馬鹿囃子などに用ふる樂器の名。鉦(かね)の種類にて凹みたる處を鐘木(しゅもく)にてチヤキチンチヤキチンと叩きまはすもの。

ちゃうけ 茶受(名) 茶を飲む時に食ふ菓子。

ちゃうす 茶臼(名) 茶を挽く臼。

ちゃのま 茶間(名) 家内の者が茶を飲み飯を食ひなどする室。●臺所の間。

ちゃのこ 茶子(名) 茶菓子。

ちゃのゑ 茶會(名) 末茶を響應する爲めにする會合。

ちゃのゆ 茶の湯(名) (一)末茶を立つる事。(二)末茶を立つる會。

ちゃのみ 茶實(名) (一)茶の木の實。(二)之に似たる形の紋。(圖)

ちゃのみばなし 茶飲話(名) 茶を飲みながらする話。●茶話。

ちゃのみともだち 茶飲友達(名) 老後の新夫婦。

ちゃのみぐさ 茶飲草(名) 茶飲話の種。

ちゃく 着(名) 其場所に行き着く事。●到着。

ぢやく 持藥(名) 平生用ふる藥。●補藥。

ちゃくたう 着到(名) (一)到着。(二)出陣の時募集に應じて群集せし軍勢の姓名を記錄する事。○謠曲「一番に馳せ參じ着到につき」

ちゃくぢょ 嫡女(名) 本妻の生みたる女子。

ちゃくちゃく 着々(副) 一歩づゝ進めて。

ちゃくちゃく 嫡々(副) 嫡子より嫡子にと代々相傳して。○「嫡々相承け」

ちゃくりゅう 嫡流(名) 嫡々相傳する血統また家筋。

ちゃくわい 茶會(名) 茶の湯の集會。

ちゃぐわし 茶菓子(名) 〔一〕茶を飲む時に食ふ菓子。〔二〕茶と菓子。

ちゃくがん 着眼(名) 目の着けどころ。

ちゃくよう 着用(名) 衣類を身に着くる事。△(動)—着用す。

ちゃくだ 着駄(名) 罪人の足に鐵の鎖を附け或は三人或は四人連れ置く事。(延喜式)

ちゃくたい 着帶(名) 妊婦の帶をする事。および其祝。●帶の祝。

ちゃくだのまつりごと 着駄政(名) 古へ五月に行はれたる公事。……公事根源に曰く「これは檢非違使以下東京にて割法を行ふ事なり。元明天皇和銅より始まる。月令の本文には孟夏の月にあるべしと見えたれど。四月は齋月にて神事繁ければ五月に行ふとなり」○万代「着駄の政を見て」

ちゃくそん 嫡孫(名) 嫡子の嫡子。

ちゃくなん 嫡男(名) 嫡子に同じ。

ちゃくふく 着服(名) 着用の衣服。

ちゃくざ 着座(名) 設の座に着く事。●着席。

ちゃぐぎょ 着御(名) 天皇に申す詞。御到着。●御着用。●御着座。

ちゃくし 嫡子(名) 本妻の生みたる男子。●長男。

ちゃくじつ 着實(名) 落着きて篤實なる事。

ちゃくせん 着船(名) 船の港に着く事。

ちゃくす 着(自動サ變) 〔一〕着く。●行き着く。●到着する。〔二〕着る。●着用する。

ぢゃくす 着(自動サ變) 心の染み着きて離れぬ。●執着する。(佛教)

ちゃや 茶屋(名) 〔一〕葉茶屋。〔二〕茶店。〔三〕料理店。

ちゃやをんな 茶屋女(名) 料理屋の給仕女。

ちゃぶろ 茶風呂(名) 茶の湯の釜を掛くる風呂。

ちゃぶね 茶船(名) 川舟の一種。

ちゃぶくろ 茶袋(名) 葉茶を入るゝ袋。貯ふるため紙にて作れるもあり。煎ずるため布にて作れるもあり。

ちゃえん 茶園(名) 茶の木を植ゑたる園。●茶畠。

ちゃてん　茶店(名)　ちゃみせ。

ぢゃあ　(後)　ではの轉。○「夢ぢゃあ無いか」(俗)

ちゃざしき　茶座敷(名)　茶の湯に設けたる座敷。

ちゃき　茶器(名)　茶を呑む道具。

ちゃきん　茶巾(名)　末茶の茶碗を拭く布巾。

ちゃめし　茶飯(名)　茶の煎じ汁を入れて炊きたる飯。●醤油にて色を附けたる飯。

ちゃみせ　茶店(名)　休息する人に茶を飲ませる店。●茶屋。

ちゃし　茶師(名)　茶の製造人。

ちゃくしょく　着色(名)　彩色。△(動)—着色す。

ちゃしつ　茶室(名)　茶の湯に設けたる室。●茶座敷。

ちゃじん　茶人(名)　〔一〕茶の湯をする人。〔二〕變人。●奇人。

ちゃしゃく　茶杓(名)　ちゃびしゃくに同じ。

ちゃくしゅ　着手(名)　手を着くる事。●或る事業を始むる事。△(動)—着手す。

ちゃびん　茶瓶(名)　茶を煎ずる器。●茶釜。●土瓶。

ちゃびしゃく　茶柄杓(名)　末茶の湯を釜より汲み出す柄杓。

ちゃせん　茶筅(名)　末茶を湯に入れて搖き交ぜる道具。

ちゃせんがみ　さゝらの如く細かく割りたるもの。茶筅髪(名)　茶筅の如く結ひて後に垂らしたる髪。後室などのするもの。

ちゃせき　茶席(名)　茶室。●茶座敷。

ちゃず　楪子(名)　菓子盆の一種。圓き漆器にて糸底のあるもの。

ちまよふ　血迷(自動四段)　怒氣などのために精神の亂るゝ。

ちまた　街。衢。岐。巷(名)　道の分れたる處。●路傍。

ちまたのかみ　衢神(名)　さへのかみ。●塞神。　衢を守護する神。●船戸の神。

ちまつり　血祭(名)　出陣の時生類の血を濺ぎて軍神を祭る事。○「攘夷の血祭」

ぢまつり　地祭(名)　其土地の主たる神を祭る事。家屋を建つる時などにする式。

ちまなこ　血眼(名)　血の色になりたる眼。

ちまぶれ　血塗(名)　血を以て塗られたる事。

ちまき　粽(名)　茅または菰の葉に米を包みて煮たるもの。又同じ葉に餅を包みたるもの。五月五日に之を食ひて祝ふ。

ちまきうま　茅卷馬(名)　茅にて作れる玩具の馬。○散

ちまきのほこ

木「幼き兒のちまきうまを持ちたるを見て」

茅纏矛(名)　茅にて柄を卷き飾りたる矛　○紀「天鈿女命、手に茅纏の矛を持ち天の岩屋戸の前に立たして」

ちけい

笞刑(名)　笞を見よ。

ちけい

智計(名)　智ある計畧。

ぢげ

地下(名)　古代の制。朝官にて未だ昇殿を許されざる人。上達部(かんだちべ)、殿上人ならぬ者。●五位以下。

ぢげ

治下(名)　支配下。●支配下の村。●我住む村。

ちけい

地形(名)　土地の形。……山川町村の位置など。

ちけい

致景(名)　風致佳景。●景色。○謠曲「さて難波の浦の致景の數々」

ちけん

地券(名)　所有地の手形。

ちけむり

血烟(名)　斬られたる時烟の如く血の噴出する事。

ちふ

チユウと發音する詞はちゆの處にあり。

ちぶ

禿(自動上二段)　筆毛の摩り切るゝ。

ぢぶ

治部(名)　〔一〕治部省の畧。〔二〕治部卿以下其省の官吏。

ぢぶと

地太(名)　糸の太き織物。

ちぶりのかみ

道觸神(名)　旅人の行く道にて出合ふ神社。●道中にある社。○土佐「わたつみのちぶりの神に手向する幣の追風やまず吹かなん」

ぢぶつ

持佛(名)　常に信仰して携へ居る佛像。

ぢぶつだう

持佛堂(名)　持佛を祭り置く堂。●佛壇。●先祖の靈屋。

ちぶんがく

地文學(名)　地球上萬象の原因結果を研究する學科。

ぢふく

地輻(名)　門の闔。

ぢふてりあ

實布繻利亞(名)　羅甸語より來る◎病の名　寒冒の種類にて小兒などには危險なるもの。

ちぶさ

乳房(名)　乳汁の出づる胸部の膨れたる處。

ちぶさのむくい

乳房の報(名)　乳もて養はれたる母への恩返し。○曾丹集「おもとしの乳房の報いするほどに」

ぢぶきやう

治部卿(名)　治部省の長官。

ぢぶしやう

治部省(名)　官廳の名。古へ八省の一つ。すべて朝廷禮儀の事を掌るところ。官吏は卿、大輔、少輔、丞、錄ありて雅樂、玄蕃、諸陵

ちご　兒(名)　〔一〕(乳兒)乳呑兒。●赤子。〔二〕(兒)小兒。〔三〕(稚兒)寺に使はるゝ少童。〔四〕稚兒の結ふ髮。畵に書きたる牛若丸などの如きもの。〔五〕之に擬して結ふ貴族少女の髮。

ちご　地五(名)　地神五代の略。

ぢご　持碁(名)　互に力の優劣なき圍碁。

ちごばみ　兒食(名)　小兒の乳などに嚙みつく事。○空穗。ちごばみにはみ給ふ恐ろしとて」

ちごおひィ　兒生(名)　小兒の生長の仕方。●小兒の時の容貌。○狹衣「大將の御ちごおひに違ふ處なく似させ給へる」

ちごがほ　兒顏(名)　小兒の顏姿。

ちごかっしき　兒喝食(名)　古へ貴族の少年の髮の結方。公家の子息は稚兒に結び。武家の子息は喝食に結ひたるを總稱して云ふ詞。

ちごのまひィ　稚兒舞(名)　佛事の時稚兒の演する舞。

ちごく　遲刻(名)　約束の刻限におくるゝ事。△(動)—遲刻す。

ぢごく　地獄(名)　〔一〕死者の行く六道の一つ。地下にありて八大地獄に分れ。極重惡人の墮落する世界。●那落。(佛敎)〔二〕之に似て恐ろしき處。〔三〕密賣婦。

ぢごくゑ　地獄畵(名)　地獄の有樣をかきたる畵。禁中にては十二月佛名の時立てらるゝ御屏風に之を畵がけり。

ぢごくてんわィう　持國天王(名)　四天王の一つ。東方を守護する神。(佛敎)

ちこゑ　千聲(名)　數々の聲。

ぢごゑ　地聲(名)　持前の聲。

ちごえんねん　兒延年(名)　稚兒にて奏する延年の舞。……延年を見よ。

ちござくら　稚兒櫻(名)　櫻の一種。花の色白くて小さき物。

ちごぎみ　兒君(名)　小兒の尊稱。●若子樣。

ちえ　千枝(名)　ちゑだに同じ。

ちゑ　智慧。智惠(名)　さとり。●かしこさ。

ちへェ　千重(名)　多くの重なり。●多くの隔て。

ちえだ　千枝(名)　多くの枝。

ちゑぶくろ　智惠袋(名)　〔一〕胸中にて智惠を貯へ置く處。〔二〕智惠のある人。

ちてい　地底(名)　地の底。

ぢあひ ひイ

地合(名)　織物の地質。●地がら。

ちあなき

(名)　馬の咳嗽する病。(和名抄)

ちあき

千秋(名)　〔一〕無數の秋。〔二〕無限の年數。……

……我國の榮など祝ひて言ふ詞。

ぢあみ

地網(名)　陸地にて引き上ぐる網。●地引網。

ちさ

苣(名)　野菜の名。葉は廣く皺あり。浸物にも和物にも汁の實にもして食す。

ちさ

智者(名)　智のある人。●佛德のすぐれたる人。

○空穗「僧綱たち名あるちさごもを召して」

ちさい

致齋(名)　神祭に携はる人の其日近くなりて行ふ潔齋法。散齋の一層重きものにて多くは三日間執行するもの。●眞忌。

ちざい

笞罪(名)　古代刑罰の一つ。●笞刑。……笞を見よ。

ちざいほふ ソ

治罪法(名)　犯罪者を處分する法律。

ちさと

千里(名)　〔一〕路の遠き處。●限なく廣き場處。〔二〕多くの村里。

ちさわらは ッ

(名)　小童の意。◎内竪。

ちさん

遲參(名)　おくれて參る事。△(動)—遲參す。

ぢさん

持參(名)　携へて行く事。△(動)—持參す。

ぢさんきん

持參金(名)　嫁婿などの貰はれて行く家へ持參する金錢。

ちさう

ちそう の處にあり。

ちさし

(形。形狀言ク活)　ちひさしの畧。

ちき

知己(名)　親友。●知人。

ちぎ

千木(名)　上古家屋の棟に打違へて高く出だしたる木。初めは鋸、鑿、鉋など無かりし故ただ丸木の榱を繩もて結びたる端の長く殘り居るものなりしが。後世に至りては別の木にて其形を作り屋根に置くの裝飾品となる。今世の神社にあるもの其遺製なり。●氷木。●片そぎ。

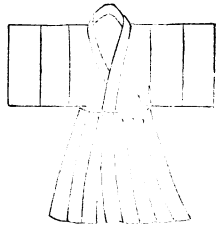
(一)

(二)

◎名の意はひち木なり。之を畧して千木とも氷木とも云ふ。ひちとは折れ曲れるものを云ふ詞。すなはち交叉せる上部の形に

ちぎ 乳木(名) 就きて云へるのみ。〔圖一、二〕
ちぎ 地祇(名) 護摩を燒く時に用ふる薪。
ちぎ 遲疑(名) 地の神。●國つ神。……天神の對。
ちぎ 直(名) 躊躇。●猶豫。△(動)—遲疑す。
たゞち。●直接。早速。●△(形)—ぢきの。(副)—ぢきに。

ぢきどつ 直綴(名) 僧服の名。腰の下に襞あるもの。〔圖〕



ぢきだう 直道(名) 成佛する直接の道。(謠曲)

ちきり 膝(名) 機の縱糸を卷く木。
ちぎり 千切(名) 千切木の略。
ちぎり 契(名) 〔一〕約束。●契約。〔二〕緣。
ちきりかうぶり 幗(名) 古代婦人裘中の帽子。
ちぎりき 千切木(名) 杖の太きもの。●棒。○「喧嘩過ぎての棒千切木」
ちぎる 契(名) 約束する。●契約する。●緣を結ぶ。
ちぎる (他動四段) 引き切る。●捻ぢ切る。●摘み切る。

ちぎる (自動下二段) 引かれて切るゝ。●捻ぢられて切るゝ。●摘まれて切るゝ。

ちけふ 地峽(名) 二つの陸地を連續さする頸の如き細長き地。

ちざやぎう 知行(名) 領地。●封土。
ぢきやうう 持經(名) 身を離さず持ちて常に讀む經文。
ぢざやうう 地形(名) 家屋建築の時土地を築き固むる事
ぢざやういし 地形石(名) 家屋建築の時柱の下の固めに置く石。●礎。
ぢきやうよみ 持經讀(名) 文などを讀經する時の如く目だひらに棒げ讀む事。
ちきやうだい 乳兄弟(名) 乳母を共にして育ちたる人
ちざやうし 知行所(名) 知行に同じ。
ぢきやうじゃ 持經者(名) 經文中の教を身に持ちて常に行ふ人。○字治「觀賢といふ持經者」

ちぎれちぎれに (副) きれ〳〵に。●ばら〳〵に。

ちきそ 直訴(名) 直接にする訴訟。
ぢきそう 直奏(名) 直接にする奏聞。
ぢきでん 直傳(名) 直接にする傳授。
ぢきさん 直參(名) 主人に直に奉仕する臣。
ちきう 地球(名) 我々の住む土地の全形。◎球の如

く圓體なる故に云ふ。

ちきう 地久(名) 〔一〕地と共に久しき事。〔二〕雅樂の曲名。

ちきふ 地給(名) 其土地にて給料を與ふる事。○謠曲「當社地給の樂人にて」

ぢきう 持久(名) 長もちする事。

ちきうぎ 地球儀(名) 地球の形の模型。

ぢきしよ 直書(名) 自筆の書狀。

ぢきひ 直披(名) 手紙の詞。其身みづから封を披く事。●親展。

ぢきひつ 直筆(名) 自筆。

ちう 中(名) なか。●まんなか。●內。

ちう 忠(名) 君のために眞心を盡す事。●忠義。●忠勤。

ちう 忠(名) 古代の官名。彈正臺の目附役。大少の二等あり。

ちう 註。注(名) 解釋。●文意の說明。

ぢう 柱(名) 琵琶の糸を支ふるもの。……琴の柱に當るもの。

ぢう 重(名) 〔一〕重なる事。●層。〔二〕重箱。

ちう 丑(名) うし。

ちう 鈕(名) 鏡、印などのつまみ。とつて。

ちうふ (後) といふの約。●てふ。○萬葉「うけぐつを脫ぎつる如く。蹈み脫ぎて行くちふ人は」

ちうい 注意(名) 心を留むる事。●氣を附くる事。●用心。

ちういん 中陰(名) 人死して後四十九日までの間。

ちうゐん 中院(名) 上皇の三人おはします時第二の院を稱ふる詞。……後鳥羽、土御門、順德三上皇の時土御門院を名づけ奉りし例。

ちうらう 中老(名) 〔一〕德川時代の役名。若年寄の一名。〔二〕奧女中の役名。老女の次に位するもの。

ちうらふ 中臈(名) 昔し四位五位の官人の女を呼びたる稱。

ぢうばつ 重罰(名) 重き刑罰。

ぢうばこ 重箱(名) 食物を入るゝ器の名。四角にて數箇重なりたるもの。

ちうにち 中日(名) 春秋彼岸七日の眞中の日。春ならば春分。秋ならば秋分に當る。

ちうにかい 中二階(名) 二階より低く平屋より高く作りたる家。

ちゅうにん 仲人(名)　仲裁人。●媒介人。
ぢゅうにん 住人(名)　其土地に居住する人。
ちゅうにく 中肉(名)　痩せてもなく肥えてもなき人の肉合。
ちゅうにふ 注入(名)　注ぎ入るゝ事。△(動)—注入す。
ちゅうほん 中本(名)　〔一〕小菊の大きさの本。〔二〕爲永春水の頃は皆中本仕立なりし故人情本の一名。
ぢゅうはう 重寶(名)　貴重の寶物。
ちゅうべん 中辨(名)　昔の官名。……辨を見よ。
ちゅうと 中途(名)　半途。●途中。
ちゅうとう 仲冬(名)　太陰曆十一月の異名。
ちゅうたう 偷盜(名)　佛法にて禁戒の一つ。盜をする事。
ちゅうだう 中道(名)　〔一〕中途。●半途。〔二〕中有(ちゅうう)に同じ。○曾我「中道の旅」
ちゅうたうかい 偷盜戒(名)　五戒の一つ。偷盜をすまじき佛法の禁戒。
ちゅうどく 中毒(名)　毒あたり。
ぢゅうぢ 住持(名)　住僧。●住職。

躊躇(名)　ためらふ事。△(動)—躊躇す。
ちゅうちょう 惆悵(名)　悲しみ痛む事。●愁嘆。△(動)—惆悵す。
ちゅうちょく 忠直(名)　忠義にて正直。
ぢゅうぢゅう 重重(副)　かさねがさね。●至極。
ちゅうりょ 中呂(名)　四月の異名。
ぢゅうりょ 住侶(名)　住僧に同じ。
ちゅうりつ 中立(名)　彼にも此にも寄らずして其外に立つ事。△(動)—中立す。
ちゅうりく 誅戮(名)　罪により殺す事。
ちゅうりゃく 中略(名)　間の文章を略して記さぬ事。△(動)—中略す。
ちゅうりゅう 中流(名)　川瀬の眞中。
ぢゅうおん 重恩(名)　深き恩。
ちゅうあう 中央(名)　まんなか。
ぢゅうをく 住屋(名)　すみか。
ちゅうか 仲夏(名)　太陰曆五月の異名。
ちゅうかい 註解(名)　註。●註釋。
ちゅうがた 中形(名)　染模樣の種類。大形と小形との間のもの。
ちゅうかん 中間(名)　あひだ。半途。●つきもない折。

ちゅうかん 忠諫(名) 忠義の心もてする諫言。

ちゅうかん 中瀚(名) 月の十日より二十日までの間。中旬。

ちゅうがく 中學(名) 〔一〕小學と大學との間にする學問 〔二〕中學校の略。

ちゅうがくかう 中學校(名) 中學を學ぶ學校。

ちゅうかへり 中返(名) とんぼがへり。

ちゅうよう 中庸(名) 中を得てよき事。

ちゅうえう 中葉(名) 中頃の世。●中昔。

ぢうだい 重代(名) 先祖代々の相傳。

ぢうだい 重代(名) 赤飯饅頭など人に贈る時其重箱を載する臺。

ちうだん 中段(名) 太陰曆の曆に云ふ詞。曆の紙面を三段に分けたる其中の段。此處には建、除、滿、平、定、執、破、危、成、納、開、閉の十二字を記して日日の吉凶を示定せり。

ぢうたく 住宅(名) 住家。

ちうれつ 忠烈(名) 忠義の盛大なるもの。

ちうれん 駐蹕(名) 天皇の御車をとゝめ給ふ事。

ちうそん 中尊(名) 三人立の眞中の佛。即ち彌陀三尊の中の阿彌陀如來。

ぢうそう 住僧(名) 住持の僧。

ちうつゐはう 中追放(名) 德川時代刑罰の名。追放三等の第二に位するもの。

ぢうつひはう 重追放(名) 德川時代刑罰の名。追放三等の第一に位するもの。

ぢうづめ 重詰(名) 重箱に食物を詰むる事。又其詰めたるもの。

ちうねん 中年(名) 壯年。●若盛り。

ちうなごん 中納言(名) 昔の官名。太政官にありて大納言と共に政事に與かる役。

ちうう 中有(名) 人死して後まだ極樂に行くとも地獄に落つるとも定まらぬ間を云ふ。○「中有の道」「中有の旅」

ぢうのうち 重の内(名) 重箱の中の食品。

ちうのまひ 中の舞(名) 能樂中舞曲の一種。序の舞より早く急の舞より緩なるもの。

ぢうくわ 重科(名) 重き刑罰。●重き罪科。

ちうぐわい 中外(名) うちそと。●內國と外國と。

ちうくわん 中浣(名) 月の十日より廿日までの間。中旬。

ちゅうぐう　中宮(名)　〔一〕始は三宮の總名。〔二〕光仁天皇よりは皇后の稱。〔三〕桓武天皇よりは皇后の下。女御の上に位する夫人。〔四〕中宮職の略。

ちゅうぐうしき　中宮職(名)　中宮の事務を執る役所。中務省に属して大夫、亮、進、属の官吏あり。

ぢゅうやく　重役(名)　重要なる役目。又は其人。

ちゅうけい　中啓(名)　半分開きたる形故に言ふ。◎扇の名。骨を紙の所より外の方に折らせて銀杏(いてふ)の形に作りたるもの。……昔は貴族裝束の時。今は神官僧侶または能樂にて持つもの。

ちゅうけん　中堅(名)　本陣。●本營。

ちゅうげん　中元(名)　七月十五日の祝日。

ちゅうげん　中間(名)　〔一〕ちゅうかんに同じ。○枕「中間にあやしの食ひ物や」更科「今宵やごらんも中間に」〔二〕中間男(ちゅうげんなんと)の略。

ちゅうげん　忠言(名)　忠義の陳言。

ちゅうげんなんと　中間男(名)　武家の下男。

ちゅうぶ　中風(名)　ちゅうふうに同じ。

ちゅうふう　中風(名)　身體の麻痹して利かぬやうになる病。●中氣。

ぢゅうぶく　重服(名)　〔一〕父母の死したる時に着る喪服。〔二〕その喪服を着る期限内。●忌服中。

ちゅうこ　中古(名)　歴史上にて大化革新より平家滅亡までを云ふ。●中昔。●王朝時代。

ぢゅうごん　重言(名)　同意の文字を二度重ねて云ふ言語。……「女の女中」「赤い朱鞘」の類。

ちゅうこう　中興(名)　衰へたる政治などの再び興り立つ事。

ちゅうかうこく　忠孝(名)　忠義と孝行と。

ちゅうこく　忠告(名)　人の過失を親切に諫め諭す事。△(動)―忠告す。

ちゅうごく　中國(名)　山陰山陽二道の總名。

ちゅうゑ　中衛(名)　中衛府の略。

ぢゅうえん　重緣(名)　既に親類なる人々と緣組する事。

ちゅうゑふ　中衛府(名)　右近衛府の舊稱。

ちゅうてつ　鑄鐵(名)　鑄たる鐵。

ちゅうてん　中天(名)　中空。

ちゅうでん　中殿(名)　清涼殿の一名。

ちゅうざ　中座(名)　半にて其座を立つ事。

ちゅうさい　仲裁(名)　喧嘩の中に立入りてする和議の捌き。

ぢゅうざい 重罪(名) 重科に同じ。

ぢゅうざかな 重肴(名) 重箱に詰めたる酒の肴。

ちゅうき 中氣(名) 中風症。

ちゅうぎ 忠義(名) 君に盡す忠と義と。●忠。

ちゅうぎょ 虫魚(名) 虫類と魚類と。

ぢゅうきょ 住居(名) 住む事。●住所。△(動)—住居す。

ちゅうきん 忠勤(名) 忠義の勤務。

ぢゅうきんこ 重禁錮(名) 刑罰の名。禁錮の重きもの。

ちゅうみつ 稠密(名) 込み合うて居る事。○「人家稠密」

ぢゅうみん 住民(名) 其土地に居住する人民。

ちゅうし 中祀(名) 古代官祭三等の一つ。三日間潔齋して行ふもの。大祀より輕く小祀より重し。祈年、月次、新嘗、加茂祭これに屬す。

ちゅうし 中止(名) 半にて止むる事。△(動)—中止す。

ちゅうし 忠死(名) 忠義の爲めにする死。

ちゅうしょ 中暑(名) 暑さあたり。●暑氣さはり。

ちゅうしょ 中書(名) 中務省、中務卿の異名。

ぢゅうしょ 住所(名) すみか。●すみごころ。

ぢゅうしょ 重書(名) 地所の讓渡狀。

ちゅうしゃう 抽賞(名) 抽んでゝ褒賞を與ふる事。△(動)—抽賞す。

ちゅうせう 中宵(名) 夜半。

ちゅうじゃう 中將(名) 〔一〕古へ近衛の府の武官の名。大將の次に位するもの。左近衛を左中將と云ひ。右近衛中將を右中將と云ふ。〔二〕能面の名。●中將以上の人を演する役者の被るもの。〔三〕今日陸海軍の官名。

ぢゅうしゃう 重傷(名) 重き負傷。●重手。

ぢゅうしょく 住職(名) 一寺の主僧。●住持。●住僧。

ちゅうじつ 忠實(名) 誠實。●深切。

ちゅうしん 中心(名) 物のまんなか。●重心點。

ちゅうしん 忠心(名) 忠義の心。

ちゅうしん 忠臣(名) 忠義なる臣下。

ちゅうじん 中人(名) 中等の人間。

ぢゅうしん 重心(名) 中心に同じ。

ぢゅうしん 重臣(名) 重役の臣。

ちゅうしゃ 注射(名) 藥などを筋肉から刺し込む事。△(動)—注射す。

ちゅうしゃく 註釋(名) 解釋。●註。

ちゅうじき 中食(名) 晝飯。

ちゅうじき 晝食(名) 午飯。●ひるめし。

ちゅうしゅ 中酒(名) 飯の間に飲む酒。

ちゅうしゅん 仲春(名) 太陰暦。二月の異名。

ちゅうじゅん 中旬(名) 月の十日より二十日までの間。

ちゅうしゅう 仲秋(名) 〔一〕太陽暦八月の異名。〔二〕八月十五夜。

ちゅうびょう 重病(名) 大病。●危篤。

ちゅうもとゆひ 中元結(名) ひらもとゆひの一名。

ちゅうもん 中門(名) 古代貴人の邸宅にある門。表門を入りて寢殿に至る入口の處。……寢殿造の圖を見よ。

ちゅうもん 註文(名) 物を誂ふる時委しく品目など記して遣はすより起りたる詞。◎あつらへ。

ちゅうせい 中世(名) 中古。●中昔。

ちゅうせつ 忠節(名) 忠義の節操。

ちゅうぜつ 中絶(名) 途中にて絶ゆる事。●とだえ。△(動)—中絶す。

ちゅうせん 抽籤(名) 鬮引。△(動)—抽籤す。

ちゅうせき 柱石(名) 國家の固めと爲る重臣。

ちゅうす 誅(他動サ變) 罪により殺す。

ちゅうず 住(自動サ變) すむ。●住居する。

ちめ 血眼(名) 眼病の名。逆上のため血の目にのぼりたるもの。

ちめい 地名(名) 土地の名。

ぢめん 地面(名) 土地の表面。●地所。

ちめぐさ 敗醬(名) 男郎花の一名。(和名抄)

ちみ 地味(名) 土地の性質。……耕作などの點に就きて云ふ。

ちみ 魑魅(名) 鬼類の一種。●すだま。

ぢみ (名) 質素。●裝飾なき事。

ちみどろ (名) 血まぶれ。●血だらけ。

ぢみち 地道(名) 馬術の詞。緩歩して進ましむる事。

ちみつ 緻密(名) 精密。●綿密。

ちし 地誌(名) 土地の記錄。●地理書。

ちし 地子(名) 古へ國司より公田を人民に貸與し秋の狀獲を待つて之を租と爲し納めしめたるもの。

ちし 致仕(名) 官を引く事。●辞職。……多くは年老いて隱居する時に云ふ。

ちじ 致仕(名) ちしに同じ。○源氏「ちじの大臣」「ちじの表」

ちじ 知事(名) 維新後は府、藩の長官。現今は府、縣の長官。

ぢしろ 地白(名) 白地の衣類。

ちしる 乳汁(名) 乳首より出づる白き汁。

ちしほ 血鹽(名) 滴る鮮血。

ちしほ 千入(名) 物を染むるに。染汁に一度入れたるを一入といひ。其度々入れたるを千入といふ。

ぢしょ 地所(名) 土地。●地面。……多くは賣買上に云ふ詞。

ちじょう 痴情(名) 色戀の心。

ちじょく 恥辱(名) はぢ。●はづかしめ。

ちしつ 地質(名) 土地の性質。

ちじつ 遲日(名) 暮遲き日。●永き日。●春の日。

ちしつがく 地質學(名) 地下萬象の狀態を研究する學科。

ちじん 知人(名) 知る人。●知己。●知友。

ちじん 痴人(名) 愚人。●馬鹿者。

ぢしん 地震(名) 地下の水火の作用によりて大地の震動すること。

ちじん 地神(名) 國土に生れ又は國土に住む神。●國つ神。=地祇に同じ。

ぢしんがく 地震學(名) 地震の眞理もしくは預知法を研究する學科。

ちじんごだい 地神五代(名) 天皇の御先祖。天照大神、忍穗耳尊、瓊々杵尊、彦火々出見尊、鸕鷀草葺不合尊、五帝の御宇。……此内。後の二神は地下にて生れ給ひしなれど前三神は天上に生れ給ひしを地神といふ事叶はずと古人も論じ置けり。

ぢしゃ 持者(名) 持經者。○著聞「多年法華の持者なり」

ちしき 知識(名) (一)知能學識。(二)佛法にて德ある人。……般若經に曰く「能く空無相、無作、無生、無滅法の法、及び一切の種智を說いて人心をして歡喜信樂に入らしむる是を善知識と名づく」

ぢしき 地錦(名) (一)高麗縁(からいべり)を附け氈の如く室内に敷く物。(二)特には舞樂の時舞臺の上の敷物。又庭上の時は地上にも敷く。多くは錦。

ぢしゅ 地主(名) 地主權現の略。

ぢしゅ 持主(名) 所有主。●もちぬし。

ちじゅつ 治術(名) 病を直す術。

ぢしゅごんげん 地主權現(名) 地主權現の略。寺内に其土地の主として祭る神社。

ちゐのひ　智惠の日(名)　智火(ちくわ)を見よ。○拾王「いかにして罪の薪をこりはて、我智惠の火に燒きつくさまし」

ちひろ　千尋(名)　無限の長さ。●無限の深さ。●無限の高さ。○「千尋の繩」「千尋の海」「千尋の瀧」

ちひろのそこ　千尋の底(名)　千尋の海の底の略。○頼政集「君が代は千尋の底のさゞれ石の鶏の居るほどにあらはるゝまで」

ちひろぐさ　千尋草(名)　竹の異名。

ちひと　千人(名)　千の人。●無數の人。

ちびちび　(副)　少しづゝ。(又)―ちびくゝと。

ちびる　(自動四段)　ちゝむ。●ちぢれる。●皺のよる。○蜻蛉「薄色なる薄物の裳を引きかくれば。腰などちびりてさがれたる朽葉にあはせたるも心地いとをかしく見ゆ」

ちびゃうビョう　持病(名)　時々起る身の病。

ちびふで　禿筆(名)　穂先の使ひ切れたる筆。

ちびき　千引(名)　千引の石。

ぢびき　地引(名)　地引網の略。

ちびきいはリ　千引岩(名)　千人の力にて引く程の重き岩。

ちびきいし　千引石(名)　ちびきいはに同じ。

ちびきのいし　千引の石(名)　ちびきいはに同じ。○夫木「をしからで投げもやられぬ我身こそ千引の石のたぐひなりけれ」

ちびきのいはリ　千引の岩(名)　ちびきいはに同じ。

ちびきのつな　千引の綱(名)　千人の力を要する程の重き物を引く綱。○夫木「深山引く千引の綱もよわるらし柚川とほす山の岩根に」

ちびきのなはリ　千引の繩(名)　千引の綱に同じ。○秋夜長物語。「千引の繩を腰につけたるが如く」

ちびきあみ　地引網(名)　海に張りて大勢にて陸へ引き上ぐる網。

ぢびびき　地響(名)　土地に響き渡る音。

ちも　(名)　ちおもの略。乳母。○萬葉「くやしくも老いにけるかな我背子が來むるちもに行かましものを」

ちもり　道守(名)　道路の番。●道路を守る神。又は番人。(古)

ちもん　地紋(名)　織物などに一體に染めたる模樣。●地模樣。

ぢもく　除目(名)　官に除し目錄に記すの意。◎(一)任

官。●任官式。〔二〕特には中古春秋二季に行はれたる任官式。又は其式日。……地方官のは春にて正月十一日より十三日まで行はる。之を縣召（あがためし）の除目と云ふ。在京官のは秋にて時日定まらず。之を司召（つかさめし）の除目と云ふ。

ちせい 地勢（名）　土地の天然の有樣。●地形。

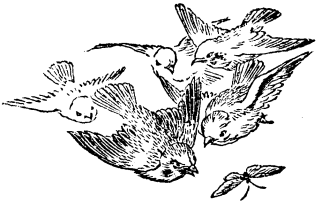
ちせい 治世（名）　〔一〕泰平の世。〔二〕其君の天下を治め給ふ間の御代。

ちせき 治蹟（名）　政治の結果。

ぢす 帙簀（名）　經卷など包み置く竹の簀。

ぢす 持（他動サ變）　もつ。●たもつ。

ぢす 治（自動サ變）　病の癒ゆる。

ちすぢ 血筋（名）　血統。●血統の連絡ある親類。

ぢすり 地摺（名）　模樣を染め出す事。●地模樣。○「地摺の裳」「地摺の袴」（雅）